

東海北陸厚生局長 殿

公立大学法人名古屋市立大学 印  
理事長 郡 健二郎

名古屋市立大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成25年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
氏 名	公立大学法人 名古屋市立大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

名古屋市立大学病院
-----------

3 所在の場所

〒 467 - 8602	電話 (052) 851 - 5511
愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 消化器内科 2 肝臓内科 3 循環器内科 4 神経内科 5 心療内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科名等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名等 1 消化器外科    2 心臓血管外科    3 小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他標榜していることが求められる診療科名

①精神科    ②小児科    ③整形外科    ④脳神経外科    ⑤皮膚科    ⑥泌尿器科    ⑦産婦人科 8 産科    9 婦人科    ⑩眼科    ⑪耳鼻咽喉科    ⑫放射線科    13 放射線診断科 14 放射線治療科    ⑮麻酔科    ⑯救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名等 1 歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 病理診断科
---------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	床	床	床	772床	808床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 26 年 9 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	204 人	204 人	367.2 人	看護補助者	53 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	4 人	10 人	12.0 人	理学療法士	10 人	臨床検査技師	48 人
薬 剤 師	42 人	2 人	43.6 人	作業療法士	3 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0.0 人	視能訓練士	3 人	その他	2 人
助 産 師	28 人	0 人	28.0 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	762 人	22 人	779.6 人	臨床工学技士	10 人	医療社会事業従事者	15 人
准看護師	0 人	2 人	1.6 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	16 人
歯科衛生士	1 人	0 人	1.0 人	歯科技工士	1 人	事務職員	94 人
管理栄養士	8 人	1 人	8.8 人	診療放射線技師	44 人	その他の職員	13 人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

(注) 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 25 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	24 人	眼 科 専 門 医	9 人
外 科 専 門 医	37 人	耳鼻咽喉科専門医	13 人
精神科専門医	12 人	放射線科専門医	18 人
小児科専門医	16 人	脳神経外科専門医	11 人
皮膚科専門医	9 人	整形外科専門医	21 人
泌尿器科専門医	16 人	麻 酔 科 専 門 医	14 人
産婦人科専門医	13 人	救急科専門医	4 人
		合 計	217 人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日当たり平均入院患者数	656.8 人	3.7 人	660.5 人
1 日当たり平均外来患者数	1,773.5 人	72.6 人	1,846.1 人
1 日当たり平均調剤数			1,346 剤
必 要 医 師 数			170.8 人
必 要 歯 科 医 師 数			4 人
必 要 薬 剤 師 数			39 人
必 要 ( 准 ) 看 護 師 数			392 人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

(注) 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	367.85 m <sup>2</sup>	S造 一部SRC/RC造	病床数	14床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	245.97 m <sup>2</sup> 台	病床数	15床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床面積 共用する室名	62.81 m <sup>2</sup>			
化学検査室	520.90 m <sup>2</sup>	S造 一部SRC/RC造	(主な設備) 検体検査システム			
細菌検査室	123.15 m <sup>2</sup>		(主な設備) 微生物検査システム			
病理検査室	221.79 m <sup>2</sup>	SRC造	(主な設備) 病理標本染色封入システム			
病理解剖室	81.18 m <sup>2</sup>		(主な設備) 解剖台、臓器撮影台、滅菌装置			
研究室	193.13 m <sup>2</sup>	S造 一部SRC/RC造	(主な設備) クリーンベンチ オートクレーブ滅菌装置			
講義室	401.90 m <sup>2</sup>		室数	1室	収容定員	320人
図書室	96.98 m <sup>2</sup>		室数	2室	蔵書数	5,300冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

(注) 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日	
紹介率	63.9 %	逆紹介率	55.9 %
算出 根拠	A：紹介患者の数	12,944 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	12,615 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,480 人	
	D：初診の患者の数	22,586 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価	28 人
硬膜外自家血注入療法	0 人
腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	9 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん（エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。）	2 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	自家末梢血幹細胞移植療法	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要			
主に、初発の多発性骨髄腫および再発性悪性リンパ腫を対象とし、大量化学療法併用の自家末梢血幹細胞移植療法			
医療技術名	同種血縁および非血縁者間造血幹細胞移植療法	取扱患者数	9 人
当該医療技術の概要			
難治性の白血病、リンパ腫や重症再生不良性貧血患者を対象としたHLA一致もしくは一部不一致ドナーを用いた、血縁および非血縁者間造血幹細胞移植療法			
医療技術名	気道過敏性試験（アストグラフ法）	取扱患者数	120 人
当該医療技術の概要			
メサコリン吸入により気道の過敏性および反応性を診る。喘息の診断や治療効果の目安となる。			
医療技術名	インパルスオキシレーション法（IOS）	取扱患者数	200 人
当該医療技術の概要			
安静呼吸時に、複数の周波数波を気道内に送り、各周波数ごとの呼吸抵抗などを測定する検査。周波数により中枢気道成分と末梢気道成分を分けて測定が可能。			
医療技術名	誘発喀痰	取扱患者数	150 人
当該医療技術の概要			
高張食塩水(3%)吸入により喀痰を採取し、その細胞所見やメディエーター濃度等を検討する。炎症性気道疾患の病態解析に有効			
医療技術名	呼気一酸化窒素濃度	取扱患者数	250 人
当該医療技術の概要			
呼気中の一酸化窒素濃度を測定することにより、喘息など好酸球性気道炎症の存在が推定可能。病態解明や治療効果判定への応用が期待される。			
医療技術名	超音波気管支鏡下リンパ節生検（EBUS-TBNA）	取扱患者数	48 人
当該医療技術の概要			
従来非侵襲的なアプローチが困難であった縦隔リンパ節病変に対し、超音波ガイド下に生検を行うことで高い診断率と安全性を実現した。			
医療技術名	蛍光気管支鏡による胸部疾患の診断	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要			
がん病巣における自家蛍光の減弱性質を利用し、特定波長下に気管支鏡を行うことで通常光では認識困難な気道の上皮内癌病変を高感度に検出する。			
医療技術名	局所麻酔下胸腔鏡による胸膜疾患の診断	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要			
びまん性胸膜疾患による胸水貯留症例に対し、手術に比べ大幅に侵襲を低減して確定診断が可能。			
医療技術名	仮想気管支鏡ソフトウェア（ビーエフ ナビ） Bf-NAVI	取扱患者数	28 人
当該医療技術の概要			
CT画像から仮想気管支鏡画像を作成する。3D画像による対象部位の表示が可能であり、気管支鏡検査室のベッドサイドでアプローチ経路の確認が可能。			
医療技術名	悪性胸膜中皮腫に対する胸膜肺全摘術	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要			
悪性胸膜中皮腫は比較的早期の症例に対して胸膜肺全摘術を行うが、心膜および横隔膜の切除再建は容易な手術ではない。当院では本手術に関するオリジナルの手術手技の工夫を行い、指導を行っている。			

医療技術名	胸腔鏡下胸腺腫瘍切除術	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要			
胸腺内にとどまる胸腺腫に対する胸腔鏡下手術は胸骨を縦断することなく施行可能であり、患者のメリットが大きい。大血管の損傷など、致命的になる可能性があり、熟練を要する。当院では本手術に関するオリジナルの手術手技の工夫を行い、指導を行っている。			
医療技術名	破裂型臍帯ヘルニア修復術（低出生体重児）	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要			
低出生体重児における破裂型臍帯ヘルニアを、新生児期早期に多期手術によって修復する。			
医療技術名	中間位鎖肛修復術	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要			
先天的に骨盤内の途中にとどまる直腸を肛門括約筋の中心に降ろし、排便機能と括約機能の両者を修復する。			
医療技術名	先天性十二指腸閉鎖症修復術	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要			
先天的に離断状態である十二指腸を、新生児期早期に一次的に修復する。			
医療技術名	仙尾部奇形腫摘出術	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要			
骨盤内から直腸背側に突出する腫瘍を、新生児期早期に直腸機能温存を図りながら再発母地を含めて摘出する。			
医療技術名	胆道閉鎖症手術	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要			
消失した肝外胆道を、生後2-3ヵ月時に再建する。			
医療技術名	先天性食道閉鎖症修復術	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要			
先天的に離断している食道を、新生児期早期の一次的あるいは多期的に修復する。			
医療技術名	先天性小腸閉鎖症修復術（低出生体重児）	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要			
低出生体重児における、先天的に離断している小腸の一次的修復。			
医療技術名	ヒルシュスプルング病修復術	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要			
乳児において腸管壁に神経節細胞を欠如する腸管を切除し、神経節細胞の存在する腸管を肛門に吻合して排便機能および禁制機能を修復する。			
医療技術名	エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳癌に対するS-1術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験	取扱患者数	9 人
当該医療技術の概要			
本試験は、「厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準の制定等に伴う実施上の留意事項及び先進医療に係る届出等の取扱いについて」に基づき、S-1 の乳癌術後療法における有効性および安全性を検討するために、先進医療 B として実施する試験である。			
医療技術名	脊椎側弯症手術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要			
成長期に脊椎が彎曲して変形する側弯症に対して、曲がりを矯正して固定する手術			
医療技術名	脊椎内視鏡手術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要			
内視鏡を用いて、小さい皮膚切開で骨や靭帯を削り、または、椎間板ヘルニアを切除して神経の圧迫を取り除く手術			



医療技術名	抗リン脂質抗体症候群合併妊娠に対する抗凝固療法	取扱患者数	30 人
当該医療技術の概要			
抗リン脂質抗体症候群は不育症の原因の1つであり、抗凝固療法（ヘパリン・アスピリン）により治療する。			
医療技術名	習慣流産患者の妊娠管理	取扱患者数	270 人
当該医療技術の概要			
習慣流産患者の診断、治療をおこない妊娠継続分娩管理をおこなう。			
医療技術名	重症妊娠高血圧症候群患者の管理	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要			
重症妊娠高血圧症候群の患者を、高度な集約的治療により、妊娠・分娩管理をおこなう。			
医療技術名	前置胎盤・胎盤早期剥離などハイリスク妊婦に対する帝王切開術	取扱患者数	40 人
当該医療技術の概要			
重圧な合併症を引き起こす可能性のある疾患である、高度な集約的治療により、妊娠・分娩管理をする。			
医療技術名	妊娠中期破水妊娠の管理	取扱患者数	32 人
当該医療技術の概要			
妊娠中期の前期破水は母体のみでなく胎児にも大きな影響を与える。集約的な治療によって妊娠分娩管理をする。			
医療技術名	胎児異常の出生前診断	取扱患者数	1,000 人
当該医療技術の概要			
胎児異常の出生前診断は困難で、専門医による診断が必要である。また診断後のカウンセリングにも専門知識が必要である。			
医療技術名	異常胎児妊娠妊婦の管理	取扱患者数	45 人
当該医療技術の概要			
胎児異常妊娠は合併症のみで無く、胎児の状態の把握も重要である。			
医療技術名	子宮頸がんに対する広汎子宮全摘術	取扱患者数	7 人
当該医療技術の概要			
広汎子宮全摘術は専門性の高い婦人科医のみが実施できる手術である。また術後合併症の頻度も高い。			
医療技術名	子宮癌に対する子宮温存療法	取扱患者数	48 人
当該医療技術の概要			
早期子宮癌は細心の注意を払った治療をすることにより、子宮を温存することができる。このことにより治療後の妊娠を望む事が出来る。			
医療技術名	精巣内精子回収法（TESE）により得られた精子を用いた顕微授精	取扱患者数	9 人
当該医療技術の概要			
精巣内から直接得られた精子を用いた顕微授精をおこなうことにより、この男性不妊症の患者が、生児を得ることが出来る。			
医療技術名	筋硬直性ジストロフィーに対する着床前診断	取扱患者数	0 人
当該医療技術の概要			
筋硬直性ジストロフィーは遺伝疾患であり、着床前診断することが出来る。			
医療技術名	染色体相互転座に起因する習慣流産患者に対する着床前診断	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要			
習慣流産の原因の1つである染色体相互転座は着床前診断することが出来る。			

医療技術名	加齢黄斑変性に対する抗VEGF硝子体内注射	取扱患者数	912 人
当該医療技術の概要			
抗VEGF薬を硝子体内に注射して、加齢黄斑変性の脈絡膜新生血管を縮小させる。			
医療技術名	加齢黄斑変性に対する光線力学療法	取扱患者数	28 人
当該医療技術の概要			
光感受性物質を静脈内投与したのちに、レーザー光線をあて、加齢黄斑変性の脈絡膜新生血管を縮小させる。			
医療技術名	黄斑円孔に対する内境界膜剥離術	取扱患者数	37 人
当該医療技術の概要			
硝子体手術で後部硝子体剥離を作成し、内境界膜剥離を作成し、ガスに置換する。			
医療技術名	増殖硝子体網膜症に対する増殖硝子体網膜症手術	取扱患者数	24 人
当該医療技術の概要			
難治性網膜剥離である増殖硝子体網膜症に対し、輪状締結を行い、硝子体および増殖膜を切除、ガスあるいはシリコンオイルで眼内を置換する。			
医療技術名	骨導補聴器うめこみ術	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要			
骨導補聴器のうめこみとその調整			
医療技術名	人工内耳うめこみ術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要			
人工内耳のうめこみとその調整			
医療技術名	喉頭形成術、軟骨転移術	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要			
一側性反回神経麻痺に対し音声改善の為、破裂軟骨を内転させ、生態を内方へ圧迫する手術 最高発声時間が、3秒程度から10秒以上にまで改善する			
医療技術名	頭頸部悪性腫瘍手術	取扱患者数	50 人
当該医療技術の概要			
口腔、鼻副鼻腔、咽頭、喉頭、唾液腺、甲状腺に発生した悪性腫瘍に対する広汎切除術であり、広汎切除後の欠損に対する再建術も含む。			
医療技術名	鼻内拡大副鼻腔手術	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要			
前頭羽や副鼻腔に隣接する部位に発生した腫瘍に対する鼻内手術である。			
医療技術名	ロボット支援腔鏡下前立腺全摘術	取扱患者数	98 人
当該医療技術の概要			
2012年4月より保険適応になり週4名の手術を行い、大きなトラブル無く施行している。前立腺周囲の解剖が従来の腹腔鏡より繊細にわかり、より高度な手術を可能にしている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	8 人
当該医療技術の概要			
ロボットの特製を生かした手術が行え、従来の腹腔鏡よりも安全かつ迅速に手術が行える。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要			
ロボットの特製を生かした手術が行え、従来の腹腔鏡よりも安全・確実に手術が行える。			
医療技術名	腹腔鏡下副腎・腎および腎尿管全摘術	取扱患者数	36 人
当該医療技術の概要			
泌尿器科関連学会による技術認定が認められている手術。技術認定医が指導を行い、順次認定を指導している。			

医療技術名	腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要			
腹腔鏡下手術において経腸間膜的に行って全国でも例をみない手法を用いている。特殊な方法であるため、解剖としての知識も必要になり、またこれを開腹手術あるいは他の腹腔鏡下手術の研修にもなっている。			
医療技術名	腹腔鏡内精巣に対する腹腔鏡下精巣固定術	取扱患者数	19 人
当該医療技術の概要			
小児に対するより低侵襲な手術として腹腔鏡を全国に先駆けて取り入れ行っている。腹腔内からの精巣の観察ができ、開腹による手術の時の理解にもつながっている。			
医療技術名	腹腔鏡下逆流防止術	取扱患者数	8 人
当該医療技術の概要			
先進医療として厚生労働省が認めた高度な手術である。小児泌尿器科領域では全国でも稀な施設である。細かな縫合技術が必要になるため、他の腹腔鏡手術への技術応用が可能になる。			
医療技術名	尿道下裂形成術	取扱患者数	45 人
当該医療技術の概要			
全国一の手術経験を持っている。拡大鏡を用いての繊細かつ高度な技術を要する。繊細な手術になるため、形成術全般に対する知識が深まる。			
医療技術名	顕微鏡下精子採取術	取扱患者数	49 人
当該医療技術の概要			
男性不妊症に対する補助生殖医療技術。産婦人科と協調しながら顕微鏡下に精子採取術を行っている。東海地区の大学病院では唯一当院でしか経験できないため、特殊な手術の経験となっている。			
医療技術名	腹腔鏡下膀胱全摘除術	取扱患者数	8 人
当該医療技術の概要			
腹腔鏡下手術においてより低侵襲な手術。特殊な器具やカメラを時に必要となりその使用により、他の腹腔鏡手術に技術と知識が応用できる。			
医療技術名	腹腔鏡下腎盂・尿管切石術	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要			
名古屋市立大病院から初めて先進医療として厚生労働省に発信予定の手術。今までの腹腔鏡下手術を基に行っている手術であり、腹腔内の解剖の理解につながる。			
医療技術名	顕微鏡下精索静脈瘤低位結紮術	取扱患者数	23 人
当該医療技術の概要			
高位結紮術と低位結紮術が存在する。その中でも顕微鏡下に行う低位結紮術は高度な技術と時間がかかるが、その代わりに再発が少ないメリットがある。			
医療技術名	ロボット支援下逆流防止術	取扱患者数	11 人
当該医療技術の概要			
先進医療として厚生労働省が認めた高度な手術である腹腔鏡手術をロボットで行った、日本で唯一行える手術である。細かな縫合技術が必要であるが、ロボットの特徴をまさにいかせる手術である。			
医療技術名	グループ認知行動療法	取扱患者数	160 人
当該医療技術の概要			
認知行動療法により、薬物を服用せずに（あるいは薬物と併用しながら）不安をコントロールすることを目標としている治療プログラムであり、考え方のクセを修正し、実際に恐怖に立ち向かって恐怖感を克服することを学ぶ。対象は、パニック障害・広場恐怖ならびに社交不安障害(対人恐怖、赤面恐怖)、強迫性障害となっている。			
医療技術名	先天性心疾患の麻酔管理及び術後集中治療管理	取扱患者数	125 人
当該医療技術の概要			
小児先天性心疾患患者の全身麻酔管理および術後集中治療室入室後の全身管理を行う。			
医療技術名	脊髄刺激電極植え込み	取扱患者数	7 人
当該医療技術の概要			
硬膜外腔に電極を挿入し脊髄電気刺激を行うことにより慢性疼痛を緩和させる			

- (注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。
- (注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	76 人	・膿疱性乾癬	37 人
・多発性硬化症	35 人	・広範脊柱管狭窄症	2 人
・重症筋無力症	139 人	・原発性胆汁性肝硬変	28 人
・全身性エリテマトーデス	308 人	・重症急性膵炎	6 人
・スモン	17 人	・特発性大腿骨頭壊死症	25 人
・再生不良性貧血	139 人	・混合性結合組織病	47 人
・サルコイドーシス	5 人	・原発性免疫不全症候群	4 人
・筋萎縮性側索硬化症	209 人	・特発性間質性肺炎	11 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	49 人	・網膜色素変性症	8 人
・特発性血小板減少性紫斑病	43 人	・プリオン病	0 人
・結節性動脈周囲炎	176 人	・肺動脈性肺高血圧症	22 人
・潰瘍性大腸炎	28 人	・神経線維腫症	6 人
・大動脈炎症候群	28 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ビュルガー病	3 人	・バッド・キアリ (Budd-Chiari) 症候群	0 人
・天疱瘡	22 人	・慢性血栓性肺高血圧症	6 人
・脊髄小脳変性症	18 人	・ライソゾーム病	3 人
・クローン病	62 人	・副腎白質ジストロフィー	0 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1 人
・悪性関節リウマチ	8 人	・脊髄性筋萎縮症	3 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	260 人	・球脊髄性筋萎縮症	2 人
・アミロイドーシス	8 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	10 人
・後縦靭帯骨化症	69 人	・肥大型心筋症	2 人
・ハンチントン病	0 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	27 人	・ミトコンドリア病	3 人
・ウェゲナー肉芽腫症	10 人	・リンパ管筋腫症(LAM)	0 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	33 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	2 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガ症候群)	18 人	・黄色靭帯骨化症	2 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1 人	間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常 症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常 症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能 低下症)	111 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 特定機能病院入院基本料(一般7:1, 精神13:1)	・ 新生児特定集中治療室管理料 1
・ 臨床研修病院入院診療加算	・ 総合周産期特定集中治療室管理料
・ 救急医療管理加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 超急性期脳卒中加算	・ 小児入院管理料 2
・ 妊産婦緊急搬送入院加算	・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料
・ 診療録管理体制加算 2	・ 歯科外来診療環境体制加算
・ 急性期看護補助体制加算 3	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 療養環境加算	・
・ 無菌治療室管理加算1・2	・
・ 緩和ケア診療加算	・
・ 精神科身体合併症管理加算	・
・ がん診療連携拠点病院加算	・
・ 医療安全対策加算 1	・
・ 感染防止対策加算 1	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊婦管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・
・ 退院調整加算	・
・ 新生児特定集中治療室退院調整加算	・
・ 救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・ データ提出加算	・
・ 救命救急入院料 1	・
・ 救命救急入院料 2	・
・ 特定集中治療室管理料 3	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 植込型除細動器移行期加算	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 高度難聴指導管理料	・ 神経学的検査
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 補聴器適合検査
・ がん患者指導管理料 1	・ ロービジョン検査判断料
・ がん患者指導管理料 3	・ コンタクトレンズ検査料 1
・ 外来緩和ケア管理料	・ 小児食物アレルギー負荷試験
・ 院内トリアージ実施料	・ 内服・点滴誘発試験
・ 外来放射線放射線照射診療料	・ センチネルリンパ節生検
・ ニコチン依存症管理料	・ CT透視下気管支鏡検査加算
・ 地域連携診療計画管理料	・ 画像診断管理加算 1
・ がん治療連携計画策定料	・ CT撮影及びMRI撮影
・ 薬剤管理指導料	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ 医療機器安全管理料 1	・ 冠動脈CT撮影加算
・ 医療機器安全管理料 2	・ 大腸CT撮影加算
・ がん治療連携管理料	・ 心臓MRI撮影加算
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 外来化学療法加算 1
・ 持続血糖測定器加算	・ 無菌製剤処理料
・ HPV核酸同定検査	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
・ HPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ測定)	・ 運動器リハビリテーション料 (I)
・ 検体検査管理加算 (I)	・ 呼吸器リハビリテーション料 (I)
・ 検体検査管理加算 (IV)	・ がん患者リハビリテーション料
・ 遺伝カウンセリング加算	・ 歯科口腔リハビリテーション料 2
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ 認知療法・認知行動療法
・ 埋込型心電図検査	・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・ 胎児心エコー法	・ 医療保護入院等診療料
・ 皮下連続式グルコース測定	・ エタノールの局所注入 (甲状腺に対するもの)

・エタノールの局所注入（副甲状腺に対するもの）	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術
・透析液水質加算	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・一酸化窒素吸入療法	・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・経皮的動脈遮断術
・組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）	・ダメージコントロール手術
・骨移植術 （軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。） 及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下肝切除術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・緑内障手術 （緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術 （眼内内視鏡を用いるもの）	・腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
・網膜再建術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・人工内耳植込術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換	・同種死体腎移植術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）	・膀胱水圧拡張術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6 （歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術
・経皮的冠動脈形成術	・輸血管理料Ⅰ
・経皮的冠動脈ステント留置術	・輸血適正使用加算
・経皮的中隔心筋焼灼術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・ペースメーカー移植術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ペースメーカー交換術	・内視鏡手術用支援機器加算
・植込型心電図記録計移植術	・麻酔管理料（Ⅰ）
・植込型心電図記録計摘出術	・麻酔管理料（Ⅱ）
・両心室ペースメーカー移植術 及び両心室ペースメーカー交換術	・放射線治療専任加算
・植込型除細動器移植術	・外来放射線治療加算
・植込型除細動器交換術	・高エネルギー放射線治療
・1回線量増加加算	・テレパソロジーによる術中迅速細胞診
・強度変調放射線治療（IMRT）	・病理診断管理加算2
・画像誘導放射線治療加算（IGRT）	・歯科治療総合医療管理料
・直線加速器による放射線治療	・クラウン・ブリッジ維持管理料

・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・CAD/CAM冠	・
・入院時食事療養（I）	・
・MRI対応植込み型デバイス患者のMRI検査	・



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・センチネルリンパ節生検	・
・悪性黒色腫センチネルリンパ節生検	・
・乳がんセンチネルリンパ節生検	・
・インプラント義歯	・
・早期悪性腫瘍大調粘膜下層剥離術	・
・内視鏡手術用支援機器加算	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

- (注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に1回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 15 例 / 剖検率 3 %

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
腫瘍壊死因子前駆体と産生酵素に介在する膜蛋白機能解析と新規抑制法の開発	城 卓志	消化器内科	¥1,500,000	⑨ 文部省科学研究費
自己免疫性膵炎および全身合併症の免疫グロブリンの遺伝子解析	中沢 貴宏	肝・膵臓内科	¥800,000	⑨ 文部省科学研究費
胃癌, GISTに対する糖鎖連結クロリンを用いた新規光線力学的治療法の開発	片岡 洋望	消化器内科	¥800,000	⑨ 文部省科学研究費
糖鎖連結光感受性物質による新規光線力学的癌治療法の開発	片岡 洋望	消化器内科	¥5,000,000	⑨ 文部科学省 橋渡し研究加速ネットワークプログラム A.
消化管癌の超高感度内視鏡診断を目指した新規光線力学的診断法の開発	片岡 洋望	消化器内科	¥1,120,000	⑨ 独立行政法人科学技術振興機構 研究成果最適展開支援プログラム フィージビリティスタディ ステージ 探索タイプ
肝硬変への進展を阻止する新しい観点からの治療法の開発	野尻 俊輔	肝・膵臓内科	¥1,600,000	⑨ 文部省科学研究費
Annexin A2を分子標的にした新規抗TNF療法の開発	谷田 諭史	消化器内科	¥1,500,000	⑨ 文部省科学研究費
消化器癌におけるATM発現とPARP阻害剤感受性の検討	久保田 英嗣	消化器内科	¥1,400,000	⑨ 文部省科学研究費
次世代シーケンサーによるDNA修復関連遺伝子の発現解析と大腸癌個別化治療への応用	久保田 英嗣	消化器内科	¥250,000	⑨ 公益法人愛知県がん研究振興会 第38回(平成25年度)がんその他の悪性新生物研究助成金
内視鏡下生検サンプルを用いた次世代シーケンサーによるDNA修復関連遺伝子の発現解析と大腸がん個別化治療への応用	久保田 英嗣	消化器内科	¥500,000	⑨ 内視鏡医学研究振興財団 平成25年度研究助成
全エクソンシーケンスによる大腸癌の染色体不安定性の原因となる新規遺伝子の同定	澤田 武	消化器内科	¥1,800,000	⑨ 文部省科学研究費
胃幹細胞が腸型化するプロセスと分子メカニズムの解明	溝下 勤	消化器内科	¥200,000	⑨ 文部省科学研究費
腫瘍溶解性ウイルスによる新規消化管癌治療法の開発	森 義徳	消化器内科	¥800,000	⑨ 文部省科学研究費
自己免疫性膵炎診断における生検の有用性	内藤 格	肝・膵臓内科	¥950,000	⑨ 文部省科学研究費

膵腫瘍におけるFluorescence in situ Hybridization 法を中心とした染色体・遺伝子検討とその臨床応用	宮部 勝之	肝・膵臓内科	¥250,000	補委	公益法人愛知県がん研究振興会第38回(平成25年度)がんその他の悪性新生物研究助成金
糖鎖連結クロリンによる新規光線力学的療法の腫瘍免疫増強メカニズムの解明と臨床応用	田中 守	消化器内科	¥1,700,000	補委	文部省科学研究費
新規光感受性物質である糖鎖連結クロリンを用いた消化管癌の超高感度内視鏡診断を目指した光線力学的診断法の開発	田中 守	消化器内科	¥1,000,000	補委	公益財団法人堀科学芸術振興財団第22回公益財団法人堀科学芸術振興財団研究助成
新規光感受性物質である糖鎖連結クロリンによる光線力学的診断の開発	田中 守	消化器内科	¥150,000	補委	平成25年消化器癌発生学会研究奨励賞
GIST(Gastrointestinal stromal tumor)に対する新規光線力学的治療法(Photodynamic Therapy;PDT)の検討	田中 守	消化器内科	¥250,000	補委	公益財団法人愛知県がん研究振興会第38回がんその他の悪性新生物研究助成
小細胞肺癌における個別化医療を目指して:アムルピシン治療バイオマーカーの解明	高桑 修	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	¥2,100,000	補委	文部科学省
咳喘息と典型的喘息の病態生理学的特徴と予後決定因子に関する包括的研究	新実 彰男	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	¥750,000	補委	文部科学省
葉酸代謝拮抗薬のバイオマーカーの探索	小栗 鉄也	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	¥600,000	補委	文部科学省
抗菌薬関連性腸炎の臨床解析と感染対策の検討	中村 敦	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	¥1,000,000	補委	文部科学省
医療機関における感染制御に関する研究	中村 敦	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	¥500,000	補委	文部科学省
固形がんに対する抗CCR4抗体療法第I/II相医師主導臨床試験	飯田真介	血液内科	¥6,000,000	補委	厚生労働省
バイオマーカーを活用した分子標的薬の有効性、安全性の効率的評価法の確立	飯田真介	血液内科	¥5,000,000	補委	厚生労働省
免疫増強・制御総合モニタリングに基づく免疫制御解除型がんワクチンの基盤開発	飯田真介	血液内科	¥4,300,000	補委	文部科学省
高感受性悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究	飯田真介	血液内科	¥3,300,000	補委	がん研究開発費
難治性リンパ系腫瘍におけるヒストン脱アセチル化酵素阻害剤に対する耐性化機構の解明	飯田真介	血液内科	¥600,000	補委	文部科学省
がん診療を受ける患者の全人的満足度、及び、その規定因子の同定に関する研究	小松弘和	血液内科	¥1,100,000	補委	文部科学省
がん・精巢抗原を標的としたATLに対する新規免疫療法の開発	石田高司	血液内科	¥5,000,000	補委	厚生労働省

固形がんに対する抗CCR4抗体療法第I a/ I b相医師主導治験	石田高司	血液内科	¥7,000,000	補委	厚生労働省
がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動	石田高司	血液内科	¥15,000,000	補委	文部科学省
ATLの診療実態・指針の分析による診療体制の整備	石田高司	血液内科	¥800,000	補委	厚生労働省
高感受性悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	石田高司	血液内科	¥1,000,000	補委	がん研究開発費
成人T細胞白血病の治癒を目指した病因ウイルス特異抗原を標的とする新規複合的ワクチン療法：抗CCR4抗体を併用した樹状細胞療法 第I/II相試	石田高司	血液内科	¥4,000,000	補委	厚生労働省
HTLV-1 キャリア・ATL患者に対する相談機能の強化と正しい知識の普及の促進	石田高司	血液内科	¥150,000	補委	厚生労働省
モガムリズマブを用いた成人T細胞白血病リンパ腫に対する革新的治療法の確立	石田高司	血液内科	¥4,480,000	補委	文部科学省
がん化学療法後のB型肝炎ウイルス再活性化のリスク因子および発症メカニズムの解明	楠本 茂	血液内科	¥1,400,000	補委	文部科学省
がん化学療法及び免疫抑制療法中のB型肝炎ウイルス再活性化予防対策法の確立を目指したウイルス要因と宿主要因の包括的研究	楠本 茂	血液内科	¥6,000,000	補委	厚生労働省
B型肝炎ウイルス感染の病態別における宿主因子等について、網羅的な遺伝子解析を用い、新規診断法及び治療法の開発を行う研究	楠本 茂	血液内科	¥1,000,000	補委	厚生労働省
難治性リンパ系腫瘍の小胞体ストレス応答（XB P 1）を標的にした分子標的療法の開発	李 政樹	血液内科	¥900,000	補委	文部科学省
難治性リンパ系腫瘍におけるヒストン脱アセチル化酵素阻害剤に対する耐性化機構の解明	李 政樹	血液内科	¥600,000	補委	文部科学省
血管免疫芽球形T細胞リンパ腫（AITL）のがん幹細胞探索と病態解明	伊藤 旭	血液内科	¥1,700,000	補委	文部科学省
不全心における心臓交感神経pre-synapse機能のPETによる検討	大手 信之	循環器・心療内科	¥1,700,000	補委	文部科学省
本邦におけるHFpEFの実態に関する多施設共同調査研究	大手 信之	循環器・心療内科	¥500,000	補委	国立循環器病研究センター
虚血性心疾患における心電図同期SPECT(QGS)検査に関する国内臨床データベース作成のための調査研究	大手 信之	循環器・心療内科	¥42,000	補委	国立循環器病研究センター
東日本大震災が心拍変動に与える影響：ホルター心電図大規模データベースを用いた検討	福田 英克	循環器・心療内科	¥1,680,000	補委	文部科学省
冠動脈内皮障害の包括的早期診断を目指したmicroRNA解析による探索的研究	杉浦 知範	循環器・心療内科	¥700,000	補委	文部科学省
臨床応用を目的とした膵癌におけるLipocalin-2の分子生物学的役割の検討	竹山廣光	消化器・一般外科	¥1,100,000	補委	文部科学省

食道がん細胞株におけるmiR-128b機能解析	三井 章	消化器・一般外科	¥700,000	補委	文部科学省
膵臓癌におけるBcl-xLとMc1-1の機能解明とsiRNAを用いた臨床応用	高橋広城	消化器・一般外科	¥1,200,000	補委	文部科学省
臨床応用を目的とした膵癌血管新生におけるPKDシグナルの分子生物学的役割の検討	松尾洋一	消化器・一般外科	¥3,800,000	補委	文部科学省
臨床応用を目的としたゲムシタピン耐性膵癌に対する抗CXCR2抗体療法の検討	宮井博隆	消化器・一般外科	¥1,300,000	補委	文部科学省
重症筋無力症の外科治療（免疫性神経疾患に関する調査研究班）	藤井 義敬	呼吸器外科	¥1,000,000	補委	厚生労働省
新手法を用いた膜受容体関連遺伝子異常検索	藤井 義敬	呼吸器外科	¥300,000	補委	日本学術振興会
FISH/CISHを用いたRET遺伝子関連異常検索	藤井 義敬	呼吸器外科	¥8,600,000	補委	日本学術振興会
リアルタイムPCRを用いたチロシンキナーゼ遺伝子変異検索	佐々木秀文	呼吸器外科	¥800,000	補委	日本学術振興会
胸腺悪性腫瘍における次世代シーケンサーを用いた網羅的遺伝子変異解析	設楽 将之	呼吸器外科	¥1,700,000	補委	日本学術振興会
心奇形患児の脳機能障害を回避する選択的脳灌流法の開発と成人への応用	三島 晃	心臓血管外科	¥3,900,000	補委	文部科学省
マイクロRNAを用いたトリプルネガティブ乳癌に対する新規治療薬の開発	遠山 竜也	乳腺内分泌外科	¥900,000	補委	日本学術振興会
遺伝子多型・血清バイオマーカーによるエストロゲン依存性乳癌罹患リスクスコアの構築	吉本 信保	乳腺内分泌外科	¥800,000	補委	日本学術振興会
エストロゲンレセプター陽性乳癌の生物学的特性に関するマイクロRNAの解析	遠藤 友美	乳腺内分泌外科	¥1,500,000	補委	日本学術振興会
乳癌に対する新規ホルモン療法薬の開発を目的としたチロシンキナーゼノックダウン療法	浅野 倫子	乳腺内分泌外科	¥2,000,000	補委	日本学術振興会
安全かつ強固な新しい腰仙椎固定術式の開発と難治性強度脊柱変形への学際的挑戦	水谷 潤	整形外科	¥2,470,000	補委	文部科学省
骨代謝全体における低分子量熱ショック蛋白質の役割の検討	福岡宗良	整形外科	¥1,560,000	補委	文部科学省
滑膜組織でのアクアポリン機能制御により関節水症の治療法の開発をめざす	大塚隆信	整形外科	¥1,690,000	補委	文部科学省
骨軟部腫瘍切除後欠損に対する脂肪由来幹細胞による組織再生と蛍光イメージング評価	林克洋	整形外科	¥910,000	補委	文部科学省
グリオスタチン産生抑制の機序解明により関節リウマチの関節破壊制御をめざす	永谷祐子	整形外科	¥1,560,000	補委	文部科学省
骨粗鬆性脊椎圧迫骨折におけるコルセット治療の有用性の検証及びその国際比較	鈴木伸幸	整形外科	¥800,000	補委	財団法人骨粗鬆症財団

骨粗鬆症性脊椎椎体骨折後1年以内に連鎖して発生する脊椎椎体骨折の予防及びADL, QoLの改善にテリパチドは有用か？	鈴木伸幸	整形外科	¥500,000	補委	旭化成研究助成プログラム
胎児染色体異常の脱落膜における母児間免疫応答と新生児血管制御因子の関与	鈴木伸宏	産科婦人科	¥1,200,000	補委	文部科学省
不育症における遺伝学的原因の探索	杉浦真弓	産科婦人科	¥500,000	補委	文部科学省
着床期子宮内膜血流量の新規評価法の確立及び不育症の原因解明と治療効果判定への応用	尾崎康彦	産科婦人科	¥1,200,000	補委	文部科学省
反復流産患者の出産率向上を目指した心理社会的治療法の開発	杉浦真弓	産科婦人科	¥100,000	補委	文部科学省
ヒト卵胞発育における血管新生調節物質の機能解明と不妊治療への応用	服部幸雄	産科婦人科	¥1,400,000	補委	文部科学省
不育症における抗リン脂質抗体標準化に関する研究	北折珠央	産科婦人科	¥2,000,000	補委	厚生労働省
不育症における抗リン脂質抗体標準化に関する研究	杉浦真弓	産科婦人科	¥1,400,000	補委	厚生労働省
抗リン脂質抗体症候群合併妊娠の治療及び予後に関する研究	杉浦真弓	産科婦人科	¥1,500,000	補委	厚生労働省
ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法の開発研究-試薬からの希少疾病治療開発の試み	齋藤伸治	小児科	¥1,500,000	補委	厚労省科研費
分野横断型全国コンソーシアムによる先天異常症の遺伝要因の解明と遺伝子診断ネットワークの確立	齋藤伸治	小児科	¥1,200,000	補委	厚労省科研費
先天性異常の疾患郡の診療指針と治療法開発をめざした情報・検体共有のフレームワークの確立	齋藤伸治	小児科	¥2,600,000	補委	厚労省科研費
遺伝子型検査を用いた薬物療法の個別適正化	齋藤伸治	小児科	¥727,273	補委	理化学研究所
精神遅滞をきたす疾患のゲノムインプリンティング解析	齋藤伸治	小児科	¥1,000,000	補委	受託研究収入
思春期発来に関与する遺伝子の網羅的解析	水野晴夫	小児科	¥2,672,045	補委	文科省科研費
HTLV-1母子感染予防に関する研究:HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究	杉浦時雄	小児科	¥1,000,000	補委	厚労省科研費
未熟児動脈管開存症のテーラーメイド治療	杉浦時雄	小児科	¥2,212,417	補委	文科省科研費
小児のoccult HBV感染の病態解明と感染予防への応用	伊藤孝一	小児科	¥1,500,000	補委	文科省科研費
小児期発症の神経筋疾患における心拍変動解析の臨床応用	服部文子	小児科	¥1,800,000	補委	文科省科研費
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	小椋 祐一郎	眼科	¥68,445,000	補委	国立保健医療科学院

ショートパルスレーザー光凝固の 虚血網膜に対する影響	吉田 宗徳	眼科	¥1,040,000	補 委	独立行政法人日 本学術振興会
抗体および生理活性物質の眼内ド ラッグデリバリーシステムの開発	安川 力	眼科	¥1,950,000	補 委	独立行政法人日 本学術振興会
加齢黄斑変性病態解明のための網膜 色素上皮細胞のシート培養の確立	加藤 亜紀	眼科	¥1,690,000	補 委	独立行政法人日 本学術振興会
網膜色素上皮でのリポ蛋白・アミロ イドβの機能の解明と加齢黄斑変性 の治療への応用	佐藤 里奈	眼科	¥1,300,000	補 委	独立行政法人日 本学術振興会
アンプリコンベクターを用いた顔面 神経麻痺の新たな治療の開発	村上 信五	耳鼻いんこう科	¥2,400,000	補 委	文部科学省
アレルギー性鼻炎が睡眠障害に及ぼ す発生機序の解明と新規治療による 研究	中山 明峰	耳鼻いんこう科	¥1,200,000	補 委	文部科学省
s i R N Aを用いた鼻アレルギーに 対する新しい点鼻局所免疫療法の開 発	鈴木 元彦	耳鼻いんこう科	¥700,000	補 委	文部科学省
鼻粘膜由来組織幹細胞による 末梢神経再生の研究	濱島 有喜	耳鼻いんこう科	¥1,900,000	補 委	文部科学省
難治性中耳炎副鼻腔炎に対しs i R N Aにより粘膜杯細胞化生を制御す る新治療法の開発	中村 善久	耳鼻いんこう科	¥800,000	補 委	文部科学省
DFNB93原因遺伝子を通じた 有毛細胞特異的なカルシウム シグナリングの機能解析	稲垣 彰	耳鼻いんこう科	¥2,700,000	補 委	文部科学省
環境因子と皮膚老化・皮膚疾患-AhR を中心とした分子メカニズム解析	森田明理	皮膚科	¥1,500,000	補 委	日本学術振興会
胎児メラノサイトの部位特異性に 関する研究	中村元樹	皮膚科	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
制御性T細胞を制御する 事前免疫シグナルの研究	山崎小百合	皮膚科	¥4,600,000	補 委	日本学術振興会
樹状細胞を用いた尋常性白斑の 特異的治療法の開発	山崎小百合	皮膚科	¥1,427,566	補 委	日本学術振興会
マウス真皮におけるメラノサイトの 遊走と分化解析	加藤裕史	皮膚科	¥1,600,000	補 委	日本学術振興会
最適化された光線療法による乾癬の 制御性T細胞の機能回復	古橋卓也	皮膚科	¥500,000	補 委	日本学術振興会
皮膚における制御性T細胞の ホメオスタシスの研究	山崎小百合	皮膚科	¥1,000,000	補 委	日本皮膚科学会
抗酸化物質、緑茶およびハーブ茶の 尿中排泄物への影響	郡 健二郎	泌尿器科	¥2,500,000	補 委	日本学術振興会 二国間交流事業 共同研究
メタボリックシンドロームにおける 腎結石形成機序の解明と予防因子 の同定	岡田 淳志	泌尿器科	¥500,000	補 委	公益財団法人 市原国際奨学財 団
過活動膀胱の発症機序におけるSCF- KIT(幹細胞因子)シグナル伝達系の 機能解析—SCFを用いた過活動膀胱 の新規尿中バイオマーカーの開発—	窪田 泰江	泌尿器科	¥300,000	補 委	公益社団法人 日本女医会

精子形成細胞における幹細胞性獲得メカニズムの解明に関する研究	水野 健太郎	泌尿器科	¥1,000,000	補 委	公益信託第24回 日本医学会総会 記念医学振興基 金
酸化ストレスの処理機構に着目した難治性膀胱癌に対する遺伝子治療法確立に向けた基礎的研究	内木 拓	泌尿器科	¥300,000	補 委	公益財団法人 中部科学技術セ ンター
腎結石防御に向けた抗炎症型マクロファージの機能解析と治療薬への応用	田口 和己	泌尿器科	¥100,000	補 委	公益財団法人 愛知腎臓財団
過活動膀胱におけるSCF-Kitシグナル伝達系の機能解析	窪田 泰江	泌尿器科	¥400,000	補 委	公益社団法人 金原一記念医学 医療振興財団
ラット精巣におけるNumbおよびNumb-likeの機能解析：In vivo遺伝子導入技術を用いた研究（2014年EAUにおける発表ならびに情報収集）	岩月 正一郎	泌尿器科	¥300,000	補 委	公益財団法人 日東学術振興財 団
メタボリックシンドロームにおける尿路結石の形成機序の解明と予防法の開発	安井 孝周	泌尿器科	¥500,000	補 委	一般財団法人 愛知健康増進財 団
抗RANKL抗体結合ナノ粒子を用いた前立腺がん骨転移に対する選択的温熱治療の開発	永田 大介	泌尿器科	¥2,100,000	補 委	文部科学省
ポリエチレングリコールによる多核細胞形成を介した膀胱腫瘍増殖抑制効果の検討	福田 勝洋	泌尿器科	¥2,030,000	補 委	文部科学省
尿路結石におけるオステオポンチン抗体を用いた分子標的治療の開発	本間 秀樹	泌尿器科	¥1,890,000	補 委	文部科学省
メタボリックシンドロームにおける接着分子の発現と腎結石促進機序の解明	坂倉 毅	泌尿器科	¥3,360,000	補 委	文部科学省
尿路結石形成におけるミトコンドリア膜をターゲットにした機能解明と予防法への応用	遠藤 純央	泌尿器科	¥1,720,000	補 委	文部科学省
過活動膀胱におけるKit受容体を標的とした新規分子標的治療薬の開発	窪田 泰江	泌尿器科	¥1,590,000	補 委	文部科学省
胎生期成長因子GDNFからみた前立腺肥大症発生機序の解明と新規治療薬の開発	高田 麻沙	泌尿器科	¥1,760,000	補 委	文部科学省
女性ホルモンの抗酸化作用による尿路結石の抑制機構の解明とその臨床応用	広瀬 真仁	泌尿器科	¥2,070,000	補 委	文部科学省
NF $\kappa$ ・B活性化阻害剤を用いた尿路結石抑制機序の解明と臨床応用	戸澤 啓一	泌尿器科	¥1,170,000	補 委	文部科学省
精子幹細胞の分化過程におけるエピゲノム制御ネットワークの解明	畦元 将隆	泌尿器科	¥2,630,000	補 委	文部科学省
精巣内遺伝子導入技術を用いた男性不妊症治療の新戦略	神谷 浩行	泌尿器科	¥2,490,000	補 委	文部科学省
インスリン抵抗性に着目した尿路結石予防法の開発	安藤 亮介	泌尿器科	¥2,066,000	補 委	文部科学省
精子幹細胞の機能解析による造精機能障害の発症メカニズムの解明と不妊治療への応用	阪野 里花	泌尿器科	¥3,489,000	補 委	文部科学省
ミトコンドリア傷害を標的とした尿路結石の新規治療薬とバイオマーカーの開発	新美 和寛	泌尿器科	¥2,580,000	補 委	文部科学省



膀胱癌に対する分子標的光線力学療法の開発	池上 要介	泌尿器科	¥2,170,000	補委	文部科学省
精巣内体細胞におけるDAX1の機能解析とアデノウイルスベクターを用いた臨床応用	黒川 覚史	泌尿器科	¥2,570,000	補委	文部科学省
疫学調査によるインスリン抵抗性に着目した下部尿路症状の病態解明と生活指導	伊勢呂 哲也	泌尿器科	¥1,866,000	補委	文部科学省
浸潤性膀胱がんに対する新しい温熱治療の開発と細胞周期からみた作用機序の解明	成山 泰道	泌尿器科	¥2,470,000	補委	文部科学省
酸素ナノバブル水による尿路結石形成の抑制機序の解明と予防法への応用	廣瀬 泰彦	泌尿器科	¥2,200,000	補委	文部科学省
マクロファージの2つの極性に着目した結石貪食能の解析と溶解療法の開発	田口 和己	泌尿器科	¥2,580,000	補委	文部科学省
遺伝子導入による精子形成におけるNotchシグナルの機能解析と不妊症治療への応用	岩月 正一郎	泌尿器科	¥2,700,000	補委	文部科学省
「腎結石の自然消滅」という新しい概念の樹立と溶解療法の開発への応用	岡田 淳志	泌尿器科	¥2,250,000	補委	文部科学省
精子幹細胞をターゲットとした男性不妊症の診断ツールと新規治療法の開発	林 祐太郎	泌尿器科	¥2,769,000	補委	文部科学省
難治性うつ病患者家族への複合家族心理教育の効果～RCTを用いた研究～	竹内 浩	精神科	¥250,000	補委	文部科学省
高機能広汎生発達障害の子どもを持つ母親に対する家族心理教育プログラムの効果	山田 敦朗	精神科	¥130,000	補委	文部科学省
がんのケアの質の評価およびケアの質の向上に関する研究	内田 恵	精神科	¥800,000	補委	文部科学省
強迫性障害におけるメタ認知の神経基盤解明とメタ認知的介入に関する統合的研究	橋本 伸彦	精神科	¥400,000	補委	文部科学省
拡張自閉症形質測定のための質問紙の日本語版及び項目反応理論に基づく比較研究	鈴木 真佐子	精神科	¥100,000	補委	文部科学省
慢性めまいに対する認知行動療法プログラムの開発と長期的治療効果の検証	近藤 真前	精神科	¥1,000,000	補委	文部科学省
社会不安障害に対する認知行動療法の脳科学的基盤の解明：fMRIによるアプローチ	川口 彰子	精神科	¥1,000,000	補委	文部科学省
在宅支援力の深化をめざした看護職IPW促進のためのアクションリサーチ	菅野 康二	精神科	¥240,000	補委	文部科学省
パニック障害に対する認知行動療法施行後のQOLの変化	小川 成	精神科	¥1,170,000	補委	文部科学省
一回・寡分割照射から通常分割照射まで適用可能な線量換算式の考案	芝本雄太	放射線科	¥1,500,000	補委	文部科研費
短時間間歇照射と寡分割照射の生物学的基礎研究にもとづく、最新陽子線技術の臨床応用	杉江愛生	放射線科	¥200,000	補委	文部科研費
拡散強調画像ボリュームデータによる膀胱癌の病期診断法の開発と治療戦略への応用	竹内充	放射線科	¥1,500,000	補委	文部科研費

マウスモデルにおける低用量放射線および樹状細胞を用いた放射線免疫療法の確立	河合辰哉	放射線科	¥780,000	補委	文部科研費
新規水チャネルの脳浮腫発症における機能の解析と新規脳浮腫治療薬の開発	幸村 英文	麻酔科	¥4,940,000	補委	日本学術振興会
周術期低酸素虚血後の脳白質傷害の発生機序解明と再生療法開発	加古 英介	麻酔科	¥4,940,000	補委	日本学術振興会
アルツハイマー型認知症患者に対する麻酔薬の影響－安全な麻酔法の確立をめざして－	祖父江 和哉	麻酔科	¥5,200,000	補委	日本学術振興会
RNAiを用いたアクアポリン機能調節による脳浮腫抑制のin vivoへの応用	藤田 義人	集中治療部	¥5,200,000	補委	日本学術振興会
人工呼吸器関連肺傷害に対する二酸化炭素血症の保護作用機序解明と新規治療薬の開発	有馬 一	麻酔科	¥5,330,000	補委	日本学術振興会
痛み関連バイオマーカーの探索研究	杉浦 健之	麻酔科	¥3,770,000	補委	日本学術振興会
脳損傷後の神経修復を阻害する脳繊維化発症機序の解明と繊維化阻害薬の開発	宮津 光範	集中治療部	¥4,290,000	補委	日本学術振興会
脊髄虚血後のASIC活性化制御による神経保護効果の検討	草間 宣好	麻酔科	¥5,200,000	補委	日本学術振興会
アルツハイマー型認知症患者に対する麻酔薬の安全性の確立	太田 晴子	麻酔科	¥4,160,000	補委	日本学術振興会
呼気ガスコントロールBOLD fMRIによる脳血流変化の検討	伊藤 彰師	集中治療部	¥4,030,000	補委	日本学術振興会
水のターンオーバーからみた髄液産生吸収機構の解明と非侵襲的水頭症診断への応用	間瀬光人	脳神経外科	¥1,800,000	補委	文部科学省
頸動脈石灰化含有プラークにおける炎症・石灰化関連遺伝子に関する分子生物学的研究	片野広之	脳神経外科	¥1,200,000	補委	文部科学省
星細胞腫に対する悪性転化抑制を目的とした新規治療法の開発	谷川元紀	脳神経外科	¥600,000	補委	文部科学省
振動MRイメージングによる脳局所のバイオメカニクス解析と臨床利用	間瀬光人	脳神経外科	¥100,000	補委	文部科学省
高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究	山田和雄	脳神経外科	¥800,000	補委	厚生労働省
脳卒中高リスク群の診断及び治療による循環器疾患制圧に関する研究	山田和雄	脳神経外科	¥2,100,000	補委	厚生労働省
脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する研究	西尾 実	脳神経外科	¥250,000	補委	厚生労働省
病理標本を用いた成人T細胞性白血病/リンパ腫患者およびキャリアにおけるHTLV-1プロウイルスおよびHBZ遺伝子発現の解析	山田勢至	脳神経外科	¥500,000	補委	名古屋市立大学病院
神経回路の機能的成熟に与るニューロン・グリア相関ダイナミズムの時空間解析	植木美乃	神経内科	¥600,000	補委	文部科学省新学術領域研究

認知機能障害を伴うパーキンソン病の海馬神経新生に着目した病態機構の解明および早期診断法の確立	植木美乃	神経内科	¥1,000,000	補委	鈴木謙三記念医科学応用研究財団 平成25年度調査研究助成金
認知症を伴うパーキンソン病患者の神経幹細胞に着目した画像遺伝学・病理学的検討と早期診断への応用	植木美乃	神経内科	¥600,000	補委	独立行政法人名古屋市立大学特別研究奨励費
human $\beta$ -defensin を用いたBRONJ切除範囲規定因子の開発	水野大生	歯科口腔外科	¥500,000	補委	名古屋市立大学特別研究奨励
ビスフォスフォネート関連顎骨壊死に対する排膿散及湯エキスの影響調査	水野大生	歯科口腔外科	¥300,000	補委	公益財団法人東洋医学研究財団
下顎埋伏智歯抜去後の術後疼痛に対するPlatelet Rich Fibrin(PRF)による鎮痛効果の検討	宮本大模	歯科口腔外科	¥300,000	補委	名古屋市立大学病院 医学研究助成
癌化学療法剤による口腔粘膜炎の治療法開発に関する基礎的研究	宮本大模	歯科口腔外科	¥300,000	補委	公益財団法人東洋医学研究財団
C型肝炎の新規診断法や新規治療法を開発するためのゲノムワイド関連解析の手法を用いた宿主因子の解析に関する研究	田中 靖人	中央臨床検査部	¥22,300,000	補委	厚生労働省
B型肝炎ウイルスの持続感染を再現する効率的な培養細胞評価系の開発に関する研究	田中 靖人	中央臨床検査部	¥56,977,000	補委	厚生労働省
iPS細胞を活用したヒトキメラマウス肝炎発症モデルの開発とその臨床応用	田中 靖人	中央臨床検査部	¥4,300,000	補委	日本学術振興会
B型肝炎ウイルス感染の病態別における宿主因子等について、網羅的な遺伝子解析を用い、新規診断法及び治療法を開発を行う研究	田中 靖人	中央臨床検査部	¥1,000,000	補委	厚生労働省
肝疾患病態指標血清マーカーの開発と迅速、簡便かつ安価な測定法の実用化	田中 靖人	中央臨床検査部	¥3,000,000	補委	厚生労働省
小児期のウイルス性肝炎に対する治療法の標準化に関する研究	田中 靖人	中央臨床検査部	¥2,500,000	補委	厚生労働省

計 183件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- (注) 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- (注) 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	片岡 洋望	消化器内科	Diagnostic utility of small-caliber and conventional endoscopes for gastric cancer and analysis of endoscopic false-negative gastric cancers.	雑誌名: World J Gastrointest Endosc 巻数(号数): 16;5(9) 出版年: 2013 ページ: 440-5.
2	溝下 勤	消化器内科	Colon Mucosa Exhibits Loss of Ectopic MUC5AC Expression in Patients with Ulcerative Colitis Treated with Oral Tacrolimus.	雑誌名: ISRN Gastroenterol 巻数(号数): 304894 出版年: 2013 ページ: —
3	溝下 勤	消化器内科	Maintenance of the remission stage of Crohn's disease with adalimumab therapy during pregnancy.	雑誌名: Intern Med 巻数(号数): 52 出版年: 2013 ページ: 1049-53
4	田中 守	消化器内科	Anti-cancer effects of newly developed chemotherapeutic agent, glycoconjugated palladium (II) complex, against cisplatin-resistant gastric cancer cells.	雑誌名: BMC Cancer 巻数(号数): 13(1) 出版年: 2013 ページ: 237
5	澤田 武	消化器内科	Association between genomic alterations and metastatic behavior of colorectal cancer identified by array-based comparative genomic hybridization.	雑誌名: Genes Chromosomes Cancer 巻数(号数): 52 出版年: 2013 ページ: 140-149
6	澤田 武	消化器内科	Hepatic portal venous gas in a patient with esophageal squamous cell carcinoma with pancreatic solitary metastasis.	雑誌名: Hepatobiliary Pancreat Dis Int 巻数(号数): 12 出版年: 2013 ページ: 103-105
7	澤田 武	消化器内科	Small intestinal lipoma causing obscure gastrointestinal bleeding.	雑誌名: Intern Med 2013 巻数(号数): 1;52(5). Epub 出版年: 2013 Mar 1. ページ: 633-4
8	尾関 啓司	消化器内科	Telmisartan inhibits cell proliferation by blocking nuclear translocation of ProHB-EGF C-terminal fragment in colon cancer cells. Department of Gastroenterology and Metabolism, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences.	雑誌名: PLoS One 巻数(号数): 8(2) 出版年: 2013 ページ: e56770

9	岡山 直司	内分泌・糖尿病内科	Predictive clinical characteristics for the efficacy of vildagliptin monotherapy in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: a multicenter study	雑誌名: Diabetology International. 巻数(号数): 4 出版年: 2013 ページ: 179-185
10	中沢 貴宏	肝・膵臓内科	Diagnosis of IgG4-related sclerosing cholangitis (Review article).	雑誌名: World J Gastroenterol 巻数(号数): 19(43) 出版年: 2013 ページ: 7661-70
11	中沢 貴宏	肝・膵臓内科	Inflammatory bowel disease of primary sclerosing cholangitis: A distinct entity? (Review article)	雑誌名: World J Gastroenterol 巻数(号数): 20(12): 出版年: 2014 ページ: 3245-3254.
12	野尻 俊輔	肝・膵臓内科	A case of rapidly developed splenomegaly after percutaneous transhepatic obliteration (PTO)	雑誌名: J liver 巻数(号数): 2 出版年: 2013 ページ: 3
13	野尻 俊輔	肝・膵臓内科	Noninvasive evaluation of hepatic fibrosis in HCV-infected patients using EOB-MR imaging	雑誌名: Journal of Gastroenterology and Hepatology 巻数(号数): 28(6) 出版年: 2013 ページ: 1032-9
14	内藤 格	肝・膵臓内科	Intraductal papillary mucinous neoplasm associated with autoimmune pancreatitis.	雑誌名: Pancreas 巻数(号数): 42 出版年: 2013 ページ: 552-4
15	内藤 格	肝・膵臓内科	Clinical evaluation of international consensus diagnostic criteria for type 1 autoimmune pancreatitis in comparison with Japanese diagnostic criteria 2011.	雑誌名: Pancreas 巻数(号数): 42 出版年: 2013 ページ: 1238-44
16	宮部 勝之	肝・膵臓内科	Histological evaluation of obliterative phlebitis for the diagnosis of autoimmune pancreatitis.	雑誌名: J Gastroenterol 巻数(号数): 49(4) 出版年: 2013 ページ: 715-26
17	宮部 勝之	肝・膵臓内科	Histiocytic sarcoma of the bile duct.	雑誌名: Intern Med 巻数(号数): 53 出版年: 2013 ページ: 1384
18	清水 周哉	肝・膵臓内科	Predictive factors for pancreatitis and cholecystitis in endoscopic covered metal stenting for distal malignant biliary obstruction.	雑誌名: J Gastroenterol Hepatol 巻数(号数): 28 出版年: 2013 ページ: 68-72

19	清水 周哉	肝・膵臓内科	Feasibility of one-step endoscopic metal stenting for distal malignant biliary obstruction.	雑誌名:J Hepatobiliary Pancreat Sci. 巻数(号数):21(3) 出版年:2014 ページ:219-25
20	堀 寧	肝・膵臓内科	Feasibility of endoscopic retrograde cholangiopancreatography-related procedures in hemodialysis patients.	雑誌名:J Gastroenterol Hepatol. 巻数(号数):29(3) 出版年:2013 ページ:648-52
21	近藤 啓	肝・膵臓内科	Efficacy of pancreatic stenting prior to extracorporeal shock wave lithotripsy for pancreatic stones	雑誌名:Dig Liver Dis 巻数(号数):46(7) 出版年:2014 ページ:639-44.
22	新海 登	肝・膵臓内科	Application of a newly developed high-sensitivity HBsAg chemiluminescent enzyme immunoassay for hepatitis B patients with HBsAg seroclearance.	雑誌名:J Clin Microbiol. 巻数(号数): 51(11) 出版年:2013 ページ:3484-91
23	飯田真介	血液内科	Bortezomib reduces the tumorigenicity of multiple myeloma via downregulation of upregulated targets in clonogenic side population cells.	PLoS One. 2013;8(3):e56954 . doi: 10.1371/journal.p one.0056954. Epub 2013 Mar 4.
24	石田高司	血液内科	Stevens-Johnson Syndrome associated with mogamulizumab treatment of adult T-cell leukemia / lymphoma.	Cancer Sci. 2013 May;104(5):647- 50. doi: 10.1111/cas.1211 6. Epub 2013 Mar 10.
25	石田高司	血液内科	Bath-PUVA therapy decreases infiltrating CCR4-expressing tumor cells and regulatory T cells in patients with mycosis Fungoides.	Clin Lymphoma Myeloma Leuk. 2013 Jun;13(3):273-80. doi: 10.1016/j.clml.20 12.12.002. Epub 2013 Jan 16.
26	石田高司	血液内科	Autologous Tax-specific CTL therapy in a primary adult T cell leukemia/lymphoma cell-bearing NOD/Shi-scid, IL-2R $\gamma$ null mouse model.	J Immunol. 2013 Jul 1;191(1):135- 44. doi: 10.4049/jimmunol .1202692. Epub 2013 Jun 3.

27	飯田真介	血液内科	Phase I/II study of bortezomib-melphalan-prednisolone for previously untreated Japanese patients with multiple myeloma.	Cancer Sci. 2013 Jul;104(7):912-9. doi: 10.1111/cas.12172. Epub 2013 May 27.
28	石田高司	血液内科	Antitumor effects of bevacizumab in a microenvironment-dependent human adult T-cell leukemia/lymphoma mouse model.	Eur J Haematol. 2014 Mar;92(3):219-28. doi: 10.1111/ejh.12231. Epub 2013 Nov 26.
29	飯田真介	血液内科	Global real-time quantitative reverse transcription-polymerase chain reaction detecting proto-oncogenes associated with 14q32 chromosomal translocation as a valuable marker for predicting survival in multiple myeloma.	Leuk Res. 2013 Dec;37(12):1648-55. doi: 10.1016/j.leukres.2013.09.026. Epub 2013 Oct 18.
30	石田高司	血液内科	Impact of graft-versus-host disease on allogeneic hematopoietic cell transplantation for adult T cell leukemia-lymphoma focusing on preconditioning regimens: nationwide retrospective study.	Biol Blood Marrow Transplant. 2013 Dec;19(12):1731-9. doi: 10.1016/j.bbmt.2013.09.014. Epub 2013 Sep 30.
31	石田高司	血液内科	HTLV-1 bZIP factor-specific CD4 T cell responses in adult T cell leukemia/lymphoma patients after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	J Immunol. 2014 Feb 1;192(3):940-7. doi: 10.4049/jimmunol.1301952. Epub 2013 Dec 20.
32	石田高司	血液内科	Prognostic impact of microRNA-145 down-regulation in adult T-cell leukemia/lymphoma.	Hum Pathol. 2014 Jun;45(6):1192-8. doi: 10.1016/j.humpath.2014.01.017. Epub 2014 Feb 6.
33	飯田真介	血液内科	Over one-third of African-American MGUS and multiple myeloma patients are carriers of hyperphosphorylated paratarg-7, an autosomal dominantly inherited risk factor for MGUS/MM.	Int J Cancer. 2014 Aug 15;135(4):934-8. doi: 10.1002/ijc.28731. Epub 2014 Feb 4.

34	楠本茂	血液内科	Successful salvage therapy using lenalidomide in a patient with relapsed multiple myeloma after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	Int J Hematol. 2013 Apr;97(4):540-3. doi: 10.1007/s12185-013-1301-4 Epub 2013 Mar 2.
35	新実 彰男	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	Cough, asthma, and cysteinyl-leukotrienes	雑誌名:Pulm Pharmacol Ther 巻数(号数):26(5) 出版年:2013 ページ:514-9
36	新実 彰男	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	Cough variant and cough-predominant asthma are major causes of persistent cough: a multicenter study in Japan.	雑誌名:J. Ashtma 巻数(号数):50(9) 出版年:2013 ページ:932-7
37	難波 大夫	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	Successful Use of Higher-Dose Etanercept for Multirefractory Systemic Flare of Adult-Onset Still's Disease with Liver Failure with No Response to Tocilizumab Therapy	Case Rep Rheumatol. 2013;2013:923497
38	高桑 修	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	Involvement of intermediate filament nestin in cell growth of small-cell lung cancer	雑誌名:Lung cancer 巻数(号数):81(2) 出版年:2013 ページ:174-179
39	高桑 修	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	Analgesic effect of switching from oral opioids to a once-a-day fentanyl citrate transdermal patch in lung cancer patients.	雑誌名:Am J Hosp Palliat Med 巻数(号数):30(7) 出版年:2013 ページ:726-9
40	高桑 修	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	Esophagitis resulting from treatment with crizotinib for anaplastic lymphoma kinase rearrangement-positive lung adenocarcinoma:A case report	雑誌名: MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY 巻数(号数):2(1) 出版年:2014 ページ:121-123
41	笠井 大嗣	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	Thymidylate Synthase gene copy number as a predictive marker for response to pemetrexed treatment in lung adenocarcinoma.	雑誌名: Anticancer Res 巻数(号数):33(5) 出版年:2013 ページ:1935-40
42	中尾 心人	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	Transformed lymphoplasmacytic lymphoma involving the main carina: a case report and literature review	雑誌名:Oncol Lett 巻数(号数):6(2) 出版年:2013 ページ:542-544



43	杉浦 知範	循環器・心療内科	Cigarette smoking induces vascular damage and persistent elevation of plasma serotonin unresponsive to 8 weeks of smoking cessation.	雑誌名: International Journal of Cardiology 巻数(号数): 166(3) 出版年:2013
44	杉浦 知範	循環器・心療内科	Midventricular ballooning Takotsubo cardiomyopathy complicated by transient complete atrioventricular block.	雑誌名: Internal Medicine 巻数(号数): 52(17) 出版年:2013 ページ: p.1919-1921
45	菊池 祥平	循環器・心療内科	Clinical significance of abnormal relaxation pattern of the transmitral flow velocity waveform in older patients with preserved left ventricular ejection fraction	雑誌名: Circulation Journal 巻数(号数): 77(10) 出版年:2013 ページ: p.2551-7
46	村井 俊介	循環器・心療内科	The prevalence, characteristics, and clinical significance of abnormal albuminuria in patients with hypertension.	雑誌名: Scientific Reports 巻数(号数): 4 出版年:2014 ページ: srep03884
47	田中 覚	循環器・心療内科	The prevalence and characteristics of microalbuminuria in the general population: a cross-sectional study.	雑誌名: BMC Research Notes 巻数(号数): 6 出版年:2013 ページ: p.256
48	北田 修一	循環器・心療内科	Pre-operative echocardiographic features associated with persistent mitral regurgitation after left ventricular assist device implantation.	雑誌名: The Journal of Heart and Lung Transplantation 巻数(号数): 32(9) 出版年:2013 ページ: p.897-904
49	蜂矢 健太	循環器・心療内科	Multiple aortic thrombosis successfully treated using pharmacotherapy	雑誌名: Internal Medicine 巻数(号数): 52(18) 出版年:2013 ページ: p.2155-2156
50	福田 道雄	腎臓内科	Awaiting the OSCAR subanalysis of subjects according to the presence of proteinuria.	雑誌名: Kidney International 巻数(号数): 84(5) 出版年:2013 ページ: p.1047
51	福田 道雄	腎臓内科	Angiotensin receptor blockers regulate the synchronization of circadian rhythms in heart rate and blood pressure	雑誌名: Journal of Hypertension 巻数(号数): 31(6) 出版年:2013 ページ: p.1233-8
52	福田 道雄	腎臓内科	Identification of chromosome 3q28 and ALPK1 as susceptibility loci for chronic kidney disease in Japanese individuals by a genome-wide association study.	雑誌名: J Med Genet 巻数(号数): 50(6) 出版年:2013 ページ: 410-418

53	白澤 祐一	腎臓内科	Diuretics-assisted treatment of chronic laxative abuse	雑誌名:CEN Case Rep 巻数(号数): 出版年:2014 ページ:DOI 10.1007/s13730-014-0120-7
54	Shibata T	消化器・一般外科	Girdin, a regulator of cell motility, is a potential prognostic marker for esophageal squamous cell carcinoma.	Oncol Rep, 29,2013;2127-2132
55	Takahashi H	消化器・一般外科	Simultaneous knock-down of Bcl-xL and Mcl-1 induces apoptosis through Bax activation in pancreatic cancer cells.	Biochim Biophys Acta, 1833(12), 2013;2980-2987
56	Funahashi H	消化器・一般外科	Successful combination chemotherapy with irinotecan hydrochloride and cisplatin for primary gastric small cell carcinoma: report of a case.	World J Surg Oncol, 11(1), 2013;1-6
57	Hara M	消化器・一般外科	The herbal drug, polysaccharide K, has an immunological and synergistic anticancer effect with cetuximab for gastrointestinal cancer in vivo.	GJMR, 13(3),2013;1-5
58	Ogawa R	消化器・一般外科	NOTCH1 expression predicts patient prognosis in esophageal squamous cell cancer.	Eur Surg Res, 51(3-4),2013;101-107
59	Miyai H	消化器・一般外科	Establishment of a simple predictive scoring system for pancreatic fistula after laparoscopy-assisted gastrectomy.	Dig Endosc, 25(6),2014:585-592
60	Tsuboi K	消化器・一般外科	Zerumbone inhibits tumor angiogenesis via NF- $\kappa$ B in gastric cancer.	Oncol Rep, 31,2014;51-64
61	Nagasaki T	消化器・一般外科	Interleukin-6 released by colon cancer-associated fibroblasts is critical for tumour angiogenesis: anti-interleukin-6 receptor antibody suppressed angiogenesis and inhibited tumour-stroma interaction.	Br J Cancer, 110(2),2014;469-478
62	藤井 義敬	呼吸器外科	The thymus, thymoma and myasthenia gravis.	Surg Today 2013 May; 43(5):461-66

63	矢野 智紀	呼吸器外科	Adverse events of pulmonary vascular stapling in thoracic surgery.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2013 Aug;; 17(2):280-4
64	矢野 智紀	呼吸器外科	Complications of bronchial stapling in thoracic surgery.	World J Surg. 2014 Feb;38(2):341-6.
65	佐々木 秀文	呼吸器外科	Polymorphisms of NRF2 gene correlated with decreased FEV1 in lung cancers of smokers.	Biomed Rep. 2013 May;1(3):484-48
66	佐々木 秀文	呼吸器外科	Genotype analysis of the NRF2 gene mutation in lung cancer.	Int J Mol Med. 2013 May;31(5):1135-8.
67	佐々木 秀文	呼吸器外科	Keap1 mutations in lung cancer patients.	Oncol Lett. 2013 Sep;6(3):719-721
68	佐々木 秀文	呼吸器外科	Usefulness of immunohistochemistry for the detection of the BRAF V600E mutation in Japanese lung adenocarcinoma.	Lung Cancer. 2013 Oct;82(1):51-4
69	佐々木 秀文	呼吸器外科	Extracellular domain mutation of erbB2 status in Japanese lung cancer patients.	J Oncobiomarkers. 2013 Dec 09;1(2):5(p1-5).
70	佐々木 秀文	呼吸器外科	PD1 gene promoter polymorphism in thymoma and myasthenia gravis.	J Immunol Clin Res 2014 Jan 20;2(1):1011(1-5)
71	佐々木 秀文	呼吸器外科	Prognosis of recurrent non-small cell lung cancer following complete resection.	Oncol Lett 2014 Feb 7;7(4):1300-1304.
72	高木 大輔	小児外科	Novel adaptor protein Shf interacts with ALK receptor and negatively regulates its downstream signals in neuroblastoma.	Cancer Sci. 104(5):563-72. 2013 May;

73	中井 洋佑	心臓血管外科	Surgical management of an aneurysm of left atrial appendage to prevent potential sequelae.	雑誌名: Interactive Cardiovascular and thoracic surgery 巻数(号数):17(3) 出版年:2013 ページ:586-587
74	浅野 實樹	心臓血管外科	Anatomical repair of aortopulmonary window with anomalous origin of the right coronary artery from the pulmonary artery.	雑誌名: J Card Surg. 巻数(号数):28(6) 出版年:2013 ページ:767-769
75	野村 則和	心臓血管外科	Sivelestat attenuates lung injury in surgery for congenital heart disease with pulmonary hypertension.	雑誌名: Ann Thorac Surg. 巻数(号数):96(6) 出版年:2013 ページ:2184-2191
76	遠藤 友美	乳腺内分泌外科	Myoepithelial carcinoma of the breast treated with surgery and chemotherapy.	Case Rep Oncol Med. 2013:164761 2013
77	Ikuta K,	整形外科	The Sp1 transcription factor is essential for the expression of gliostatin/thymidine phosphorylase in rheumatoid fibroblast-like synoviocytes	Arthritis Research & Therapy, 14(2): R87, 2012
78	Hatoh T	整形外科	Domain 5 of high molecular weight kininogen inhibits collagen-mediated cancer cell adhesion and invasion in association with $\alpha$ -actinin-4	Biochem Biophys Res Commun, 427: 497-502, 2012
79	Nishimori M,	整形外科	Therapeutic potential of anterior cruciate ligament derived stem cells for anterior cruciate ligament reconstruction	Cell Transplantation, 21(8): 1651-1665, 2012
80	Takada N	整形外科	Minimally invasive plate osteosynthesis for distal radius fractures with a palmar locking plate	Eur J Trauma Emerg Surg, 38: 627-632, 2012
81	Yamagami T	整形外科	Phenotypic analysis of astrocytes derived from glial restricted precursors and their impact on axon regeneration	Experimental Neurology, 233(2): 717-732, 2012
82	Ota S	整形外科	The timing of administration of a clinically relevant dose of losartan influences the healing process after contusion induced muscle injury	Journal of Applied Physiology, Nov 15. (Epub ahead of print), 2012

83	Nozaki M	整形外科	Timing of the administration of suramin treatment after muscle injury	Muscle & Nerve, 46(1): 70-79, 2012
84	Ota S	整形外科	Therapeutic advantage in selective ligament augmentation for partial tears of the anterior cruciate ligament—Results in an animal model	The American Journal of Sports Medicine, in press, 2012
85	Yoshihara H	整形外科	Cervicothoracic junction fracture/subluxation after multilevel anterior cervical spine fusion surgery	Eur J Orthop Surg Traumatol, 22: 597-601, 2012
86	Yoshihara H	整形外科	Pedicle Screw Placement with O-arm and Stealth Navigation	Orthopedics, 35(1): e61-65, 2012
87	Yoshihara H	整形外科	Sacroiliac joint pain after lumbar/lumbosacral fusion: current knowledge	Eur Spine J, 21(9): 1788-1796, 2012
88	Mizutani J	整形外科	Involvement of AMP-activated protein kinase in TGF- $\beta$ -stimulated VEGF synthesis in osteoblasts	Int J Mol Med, 29(4): 550-556, 2012
89	Kondo A	整形外科	AMP-activated protein kinase inhibitor decreases prostaglandin F $2\alpha$ -stimulated interleukin-6 synthesis through p38 MAP kinase in osteoblasts	Int J Mol Med, 30(6): 1487-1492, 2012
90	Otani M	整形外科	Comparative risk of common peroneal nerve injury in far anteromedial portal drilling and transtibial drilling in anatomical double-bundle ACL reconstruction	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc, 20(5): 838-843, 2012
91	Kondo A	整形外科	Wnt3a upregulates prostaglandin F $2\alpha$ -stimulated vascular endothelial growth factor synthesis in osteoblasts	Mol Med Rep, 6(2): 421-425, 2012
92	Kato K	整形外科	AMPK limits IL-1-stimulated IL-6 synthesis in osteoblasts: involvement of I $\kappa$ B/NF- $\kappa$ B pathway	Cell Signal, 24(8): 1706-1712, 2012

93	Kato K	整形外科	Involvement of AMP-activated protein kinase in thrombin-stimulated interleukin 6 synthesis in osteoblasts	J Mol Endocrinol, 49(1): 47-55, 2012
94	Otsuka T	整形外科	The ikyoku system of university orthopedic surgery departments: an in-hospital organizational system unique to Japan—its significance for advancement of basic medical science related to orthopedic surgery	J Orthop Sci, 17(5): 513-514, 2012
95	Wada I	整形外科	Involvement of the adrenal glands and testis in gap junction formation via testosterone within the male rat anterior pituitary gland	Microsc Res Tech, 75(12): 1632-1638, 2012
96	Otani M	整形外科	Anatomical study on perforators of the medial and lateral sural artery in Asians	Nagoya medical journal, 52: 89-98, 2012
97	Chen R	整形外科	Ghrelin improves cognitive function in mice by increasing the production of insulin-like growth factor-I in the hippocampus	Nagoya medical journal, 52: 117-134, 2012
98	杉浦 真弓	産科婦人科	Frequency of recurrent spontaneous abortion and its influence on further marital relationship and illness: The Okazaki Cohort Study in Japan.	雑誌名: J Obstet Gynaecol Res. 巻数(号数): 39(1) 出版年: 2013 ページ: 126-31
99	杉浦 真弓	産科婦人科	Reply to: An insight on career satisfaction level, mental distress, and gender differences in working conditions among Japanese Obstetricians and Gynecologists.	雑誌名: J Obstet Gynecol Res 巻数(号数): 39(1) 出版年: 2013 ページ: 469
100	杉浦 真弓	産科婦人科	Possible improvement of depression after systematic examination and explanation of live birth rates among women with recurrent miscarriage.	雑誌名: J Obstet Gynecol 巻数(号数): 33(2) 出版年: 2013 ページ: 37-43
101	鈴森 伸宏	産科婦人科	Frequency of recurrent spontaneous abortion and its influence on further marital relationship and illness: The Okazaki Cohort Study in Japan.	雑誌名: J Obstet Gynaecol Res. 巻数(号数): 39 出版年: 2013 ページ: 1545-47

102	片野 衣江	産科婦人科	Peripheral natural killer cell activity as a predictor of recurrent pregnancy loss: a large cohort study.	雑誌名:Fertil Steril 巻数(号数): 100(6) 出版年:2013 ページ:1629-34
103	服部 幸雄	産科婦人科	Comparison of follicular fluid and serum anti-Mullerian hormone levels as predictors of the outcome of assisted reproductive treatment.	雑誌名:Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 巻数(号数): 169(2) 出版年:2013 ページ:252-6
104	後藤 志信	産科婦人科	Two cases of prenatally diagnosed sacrococcygeal teratoma type I with different clinical features.	雑誌名:Cong Anomal 巻数(号数):53 出版年:2013 ページ:92-94
105	杉浦時雄	小児科	Recurrent Cholangitis with Congenital Hepatic Fibrosis and Pancreaticobiliary Maljunction after Roux-en-Y Reconstruction	雑誌名:Eur J Pediatr Surg 巻数(号数):1 出版年:2013 ページ:43-45
106	野村孝泰	小児科	Effect of Japanese cedar specific immunotherapy on allergen-specific T <sub>H</sub> 2 cells in peripheral blood	雑誌名:Ann Allergy Asthma Immunol 巻数(号数):110 出版年:2013 ページ:380-385
107	野村孝泰	小児科	Food sensitization in Japanese infants is associated with a common Filaggrin variant	雑誌名:Ann Allergy Asthma Immunol 巻数(号数):110 出版年:2013 ページ:386-393
108	加藤沙耶香	小児科	Massive intracranial hemorrhage caused by neonatal alloimmune thrombocytopenia associated with anti-group A antibody	雑誌名:Journal of Perinatology 巻数(号数):33 出版年:2013 ページ:79-82
109	小椋 祐一郎	眼科	Optical performance of hydrophobic acrylic intraocular lenses with surface light scattering.	J Cataract Refract Surg 40(1) 2014 104-113
110	白井 英晶	眼科	Comparative study of the effects of room air and sulfur hexafluoride gas tamponade on functional and morphological recovery after macular hole surgery: a retrospective study.	Ophthalmic Res 50(4) 2013 227-230
111	伊藤 祐也	眼科	Efficient delivery of siRNA by atelocollagen in a murine laser-induced choroidal neovascularization model.	Ophthalmologica 230(4) 2013 215-221

112	中山 明峰	耳鼻いんこう科	Obstructive sleep apnea syndrome as a novel cause for Meniere's disease	雑誌名: Curr Opin Otolaryngol Head Neck Surg 巻数(号数): 21 出版年: 2013 ページ: 503-508
113	中山 明峰	耳鼻いんこう科	Seasonal variation in a clinical referral pediatric cohort at risk for obstructive sleep apnea	雑誌名: International Journal of Pediatric Otorhinolaryngology 巻数(号数): 77(2) 出版年: 2013 ページ: 266-269
114	中村 善久	耳鼻いんこう科	Optimal duration of macrolide treatment for chronic sinusitis after endoscopic sinus surgery	雑誌名: Auris Nasus Larynx 巻数(号数): 40(4) 出版年: 2013 ページ: 366-372
115	中村 善久	耳鼻いんこう科	Math1, retinoic acid, and TNF- $\alpha$ synergistically promote the differentiation of mucous cells in mouse middle ear epithelial cells in vitro	雑誌名: Pediatric Res 巻数(号数): 74(3) 出版年: 2013 ページ: 918-924
116	稲垣 彰	耳鼻いんこう科	Developmental alterations in the biophysical properties of Ca(v)1.3 Ca(2+) channels in mouse inner hair	雑誌名: Channels(Austin) 巻数(号数): 7(3) 出版年: 2013 ページ: 171-181
117	稲垣 彰	耳鼻いんこう科	Pharmacological correction of gating defects in the voltage-gated Cav2.1 Ca2+ channel due to a familial hemiplegic migraine mutation	雑誌名: Neuron 巻数(号数): 81(1) 出版年: 2013 ページ: 91-102
118	川北 大介	耳鼻いんこう科	Impact of positron emission tomography with the use of fluorodeoxyglucose on response to induction chemotherapy in patients with oropharyngeal and hypopharyngeal squamous cell carcinoma.	雑誌名: Acta Otolaryngol. 巻数(号数): 133(5) 出版年: 2013 ページ: 523-30
119	古橋卓也、他	皮膚科	Bath-psoralen UVA and narrowband UVB reduce circulating Th17 cells and restore circulating regulatory T cells in psoriasis	PLoS One. 2013;8(1):e54895. doi: 10.1371/journal.pone.0054895. Epub 2013 Jan 24.
120	Mizuno Kentaro	泌尿器科	Expression analysis of the pluripotency marker UTF-1 for determining the applicability of testis-sparing surgery for prepubertal testis tumors.	雑誌名: Journal of Pediatric Surgery Case Report 巻数(号数): 1 出版年: 2013 ページ: 125-128
121	Hayashi Yutaro	泌尿器科	Can spongioplasty prevent fistula formation and correct penile curvature in TIP urethroplasty for hypospadias?	雑誌名: Pediatric Urology 巻数(号数): 81 出版年: 2013 ページ: 1330-1335



122	Yasui Takahiro	泌尿器科	The association between the incidence of urolithiasis and nutrition based on Japanese national health and nutrition surveys.	雑誌名: Urolithiasis 巻数(号数):41 出版年:2013 ページ:217-224
123	Okada Atsushi	泌尿器科	Impact of official technical training for urologists on the efficacy of shock wave lithotripsy.	雑誌名: Urolithiasis 巻数(号数):41 出版年:2013 ページ:487-492
124	Hirose Yasuhiko	泌尿器科	Oxygen nano-bubble water reduces calcium oxalate deposits and tubular cell injury in ethylene glycol-treated rat kidney.	雑誌名: Urolithiasis 巻数(号数):41 出版年:2013 ページ:279-294
125	Hayashi Yutaro	泌尿器科	Re: Editorial Comment to Circumcision related to urinary tract infections, sexually transmitted infections, human immunodeficiency virus infections, and penile and cervical cancer.	雑誌名: International Journal of Urology 巻数(号数):20 出版年:2013 ページ:776-777
126	Yasui Takahiro	泌尿器科	A replication study for three nephrolithiasis loci at 5q35.3, 7p14.3 and 13q14.1 in the Japanese population.	雑誌名:Journal of Human Genetics 巻数(号数):58 出版年:2013 ページ:588-593
127	Hayashi Yutaro	泌尿器科	Circumcision related to urinary tract infections, sexually transmitted infections, human immunodeficiency virus infections, and penile and cervical cancer.	雑誌名: International Journal of Urology 巻数(号数):20 出版年:2013 ページ:769-775
128	Kobayashi Daichi	泌尿器科	Thermotherapy using magnetic cationic liposomes powerfully suppresses prostate cancer bone metastasis in a novel rat model.	雑誌名:The Prostate 巻数(号数):73 出版年:2013 ページ:913-922
129	Mizuno Kentaro	泌尿器科	Gene expression profile during testicular development in patients with SRY-negative 46,XX testicular disorder of sex development.	雑誌名:Urology 巻数(号数):82 出版年:2103 ページ:1453
130	Kurokawa Satoshi	泌尿器科	Transurethral marking incision of the bladder neck: a helpful technique in robot-assisted laparoscopic radical prostatectomy involving post-transurethral resection of the prostate and cancers protruding into the bladder neck.	雑誌名:BMC Urology 巻数(号数):13 出版年:2103 ページ:40
131	Nakane Akihiro	泌尿器科	Feasibility of a novel extraperitoneal two-port laparoendoscopic approach for radical prostatectomy: An initial study.	雑誌名: International Journal of Urology 巻数(号数):20 出版年:2013 ページ:729-733

132	明智 龍男	精神科	Assessing medical decision making capacity among cancer patients: Preliminary clinical experience of using a competency assessment instrument.	Palliat Support Care, 2013: p. 1-5.
133	川口 彰子	精神科	Group cognitive behavioral therapy for patients with generalized social anxiety disorder in Japan: outcomes at 1-year follow up and outcome predictors.	Neuropsychiatr Dis Treat, 2013. 9: p. 267-75.
134	中口 智博	精神科	Oncology nurses' recognition of supportive care needs and symptoms of their patients undergoing chemotherapy.	Jpn J Clin Oncol, 2013. 43(4): p. 369-76.
135	芝本雄太	放射線科	Primary CNS lymphoma treated with radiotherapy in Japan: a survey of patients treated in 2005-2009 and a comparison with those treated in 1985-2004.	Int J Clin Oncol. 2013 Dec 3. [Epub ahead of print]
136	下平政史	放射線科	Triaxial coil embolization using Guglielmi detachable coils with the voltage-dependent coil-detaching technique.	Acta Radiol. 2013 Dec 20.
137	真鍋良彦	放射線科	Toxicity and efficacy of three dose-fractionation regimens of intensity-modulated radiation therapy for localized prostate cancer.	J Radiat Res. 2014 May;55(3):494-501.
138	竹内充	放射線科	Characteristic MRI findings of sarcomatoid renal cell carcinoma dedifferentiated from clear cell renal carcinoma: radiological-pathological correlation.	Clin Imaging. 2013 Sep-Oct;37(5):908-12.
139	小澤良之	放射線科	Utility of high-definition FDG-PET image reconstruction for lung cancer staging.	Acta Radiol. 2013 Oct;54(8):916-20.
140	太田賢吾	放射線科	Percutaneous fiducial marker placement under CT fluoroscopic guidance for stereotactic body radiotherapy of the lung: an initial experience.	J Radiat Res. 2013 Sep;54(5):957-61.
141	河合辰哉	放射線科	Accuracy of iodine removal using dual-energy CT with or without a tin filter: an experimental phantom study.	Acta Radiol. 2013 Oct;54(8):954-60.

142	藤田義人	集中治療部	Age-related requisite concentration of sevoflurane for adequate sedation with combined epidural-general anesthesia.	雑誌名: Korean J Anesthesiol. 巻数(号数): 64(6) 出版年: 2013 ページ: 489-93
143	藤田義人	集中治療部	A comparison between dosages and plasma concentrations of dexmedetomidine in clinically ill patients: a prospective, observational, cohort study in Japan.	雑誌名: Journal of Intensive Care 巻数(号数): 1 出版年: 2013 ページ: 15
144	太田晴子	麻酔科	Proteomic analysis of Girdin-interacting proteins in migrating new neurons in the postnatal mouse brain.	雑誌名: Biochem Biophys Res Commun 巻数(号数): 442(1-2) 出版年: 2013 ページ: 16-21
145	梅村 淳	脳神経外科	Factors affecting early decline of executive function after subthalamic nucleus stimulation in Parkinson's disease.	Advances in Parkinson's Disease 2:75-80, 2013
146	梅村 淳	脳神経外科	Validity of single tract microelectrode recording in subthalamic nucleus stimulation.	Neurol Med Chir (Tokyo) 53(11):821-7, 2013
147	相原徳孝	脳神経外科	Interaural Difference of Wave V Predicting Postoperative Hearing in Gardner-Robertson Class II Acoustic Neuroma Patients.	J Neurol Surg B Skull Base. 74(5):274-8.2013
148	片野広之	脳神経外科	Protection by physical activity against deleterious effects of smoking on carotid intima-media thickness and atherosclerosis in young Japanese.	J Stroke Cerebrovasc Dis 22: 176-183, 2013
149	片野広之	脳神経外科	Negative pressure wound therapy for a large skin ulcer following repair of huge myeloschisis with kyphosis in a newborn.	Childs Nerv Syst. 29:2295-2299, 2013

150	片野広之	脳神経外科	Differential gene expression in carotid plaques with calcification.	Atherosclerosis 14: S687, 2013 [http://w3.kenes-group.com/apps/eas2013/abstracts/pdf/687.pdf]
151	片野広之	脳神経外科	Upregulation of ANGPTL4 messenger RNA and protein in severely calcified carotid plaque.	J Stroke Cerebrovasc Dis 2013 (Epub ahead of print)
152	片野広之	脳神経外科	Comparison of internal shunts during carotid endarterectomy under routine shunting policy.	Neurol Med Chir 2013 (Epub ahead of print)
153	川嶋将司	神経内科	Differences in dopaminergic modulation to motor cortical plasticity between Parkinson's disease and multiple system atrophy	雑誌名: PLoS ONE 巻数(号数): 8(5) 出版年: 2013 ページ: e62515
154	小栗卓也	神経内科	Postsurgical propriospinal myoclonus emerging at wake to sleep transition	雑誌名: sleep medicine 巻数(号数): Jan15(1) 出版年: 2014 ページ: 152-4
155	水野将行	神経内科	Gadolinium enhancement of facial nerves in MRI associated with rapid progression in a case of familial Amyotrophic Lateral Sclerosis with a C6G mutation in Superoxide Dismutase 1	雑誌名: Neurology and clinical neuroscience 巻数(号数): in press 出版年: 2014 ページ: 54-56
156	堀井幸一郎	歯科口腔外科	Platelet-rich fibrin has a healing effect on chemotherapy-induced mucositis in hamsters. (血小板の豊富なフィブリンは、ハムスターで化学療法によって誘発された粘膜炎に治癒影響を及ぼす。)	雑誌名: Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol. 巻数(号数): 117; pii: S2212-4403(13)01692-1. 出版年: 2014 ページ: 445-53

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- (注) 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- (注) 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- (注) 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- (注) 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

## (2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- (注) 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- (注) 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容  目的と適用範囲、責務、構成、委員長の選任方法、開催、成立要件、資料、調査・審議・報告事項、病院長に答申する事項、会議の運営・記録に関する事項、事務局、記録の保存	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(注) 2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容  大学としての利益相反の指針を示す「利益相反ポリシー」のもと、「利益相反マネジメント規程」並びに「大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会規程」を制定し、毎年利益相反に関する自己申告書を提出のうえ、必要に応じて適宜ヒアリングを実施している。 また、利益相反に関する専門的事項について調査及び審議するため、全学的な組織として外部専門家を含めた利益相反委員会を設置しているほか、別途、医学研究等にかかる利益相反に関する事項を審議するため、医学研究科内に大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会を設置し、適切な管理に努めている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 5 回
・ 研修の主な内容  臨床試験実施セミナーとして、臨床研究の倫理指針あるいはGCP等に準じ、被験者保護についてなどを取り上げ、実施者である研究者が行うべき事項について講習が行われている。当該セミナーの受講は全職員を対象に行われる。また、研究者らは、原則1年に1回以上の出席が介入を伴う臨床試験に参加するための要件となっている。	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科において、診療科部長又は部長代理を研修統括者とした指導体制を整備し、基本領域の専門医資格取得を目指し、目標、指導体制、診療実績、連携施設等を含めた研修プログラムをホームページで明示している。

また、現在、一般社団法人 日本専門医機構が定めた「専門医制度整備指針（第1版）」に基づき、臨床研修を統括する総合研修センターの主導により、各診療科の専門研修プログラムの更新を進めている。

なお、新たな専門医制度については、院内の臨床研修委員会（委員長：総合研修センター長）やその他会議において、周知している。

2 研修の実績

研修医の人数	51.6人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大原 弘隆	総合内科・総合診療科	部長	30年	
城 卓志	消化器内科	部長	36年	
中沢 貴宏	肝・膵臓内科	部長	27年	
新実 彰男	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	部長	29年	
大手 信之	循環器・心療内科	部長	33年	
岡山 直司	内分泌・糖尿病内科	部長	31年	
飯田 真介	血液・腫瘍内科	部長	27年	
松川 則之	神経内科	部長	26年	
福田 道雄	腎臓内科	部長	24年	
竹山 廣光	消化器・一般外科	部長	35年	
矢野 智紀	呼吸器外科	部長代理	24年	
三島 晃	心臓血管外科	部長	33年	
近藤 知史	小児・移植外科	部長	30年	
遠山 竜也	乳腺内分泌外科	部長	25年	
大塚 隆信	整形外科	部長	35年	
杉浦 真弓	産科婦人科	部長	29年	
齋藤 伸治	小児科	部長	29年	
小椋 祐一郎	眼科	部長	34年	
村上 信五	耳鼻いんこう科	部長	34年	
森田 明理	皮膚科	部長	25年	
林 祐太郎	泌尿器科	部長代理	29年	
明智 龍男	精神科	部長	23年	
芝本 雄太	放射線科	部長	34年	
祖父江 和哉	麻酔科	部長	21年	
間瀬 光人	脳神経外科	部長	29年	
渋谷 恭之	歯科口腔外科	部長	25年	
和田 郁雄	リハビリテーション部	部長	36年	
稲垣 宏	病理診断部	部長	30年	
笹野 寛	救急部	部長	27年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況 (任意)

・研修の主な内容

【看護師】

(別紙資料1参照)

【薬剤師】

市民病院と化学療法に関する合同勉強会を実施している。

「名市大・市民病院合同化学療法勉強会」

- ①チーム医療 (6/19) 参加者94名
- ②「抗がん剤」とは (7/17) 参加者165名
- ③抗がん剤投与管理 (8/21) 参加者136名
- ④抗がん剤曝露予防 (9/18) 参加者115名
- ⑤CVポート血管外漏出 (10/16) 参加者115名
- ⑥好中球減少 (11/20) 参加者128名
- ⑦悪心・嘔吐 (12/18) 参加者102名

【臨床検査技師】

- ①高度先進医療として実施している人の遺伝子多型であるIL28Bについて、検査精度を確保するため既知の検体を測定し、検査手技、データ解釈等の研修を実施している。
- ②一般社団法人 日本輸血・細胞治療学会における認定技師制度指定施設として認定を受け、研修を実施している。

【診療放射線技師】

- ①医療機器の安全使用のため、高度管理医療機器研修を実施している。
- ②最新の技術紹介や、業務内容について検討し、全体のレベル向上を図るための業務検討会を実施している。

【臨床工学技士】

- ①医療機器安全基礎講習会にて、輸液ポンプや人工呼吸器等の基礎的内容について学ぶ。
- ②日本人工臓器学会教育セミナーにて、人工心肺等の体外循環について学ぶ。
- ③ECMOプロジェクトシミュレーションラボにて、ECMO管理について学ぶ。

・研修の期間・実施回数

【看護師】

(別紙資料1参照)

【薬剤師】

上記参照

【臨床検査技師】

- ①2013/12、2014/3 計2回
- ②2013/5 (2日間)

【診療放射線技師】

- ①2013/4/23、2013/10/31 計2回
- ②2013/6/25、2013/8/1、2013/8/27、2013/9/17、2013/9/25、2013/10/15、2013/11/7、2013/11/25、2013/12/10、2013/2/4、2013/3/4 計11回

【臨床工学技士】

- ①1日間を1回
- ②2日間を1回
- ③1日間を1回



・研修の参加人数

【看護師】

(別紙資料1参照)

【薬剤師】

上記参照

【臨床検査技師】

①3名 ②2名 (他施設臨床検査技師)

【診療放射線技師】

①31名、26名

②24名、26名、25名、19名、24名、27名、19名、25名、23名、28名、18名

【臨床工学技士】

各研修会1名

② 業務の管理に関する研修の実施状況 (任意)

・研修の主な内容

【課長級研修】

①人材育成の環境づくりの必要性の理解、②自部門の人材育成のビジョンの確認、アプローチの方法

【係長級研修】

①管理者としての人材育成の基本的な考え方の理解、②相手のモチベーションを大切にする指導法

・研修の期間・実施回数

①係長級研修 (全2回 (第1回:平成25年9月・10月、第2回:平成25年11月実施))

②課長級研修 (全1回 (平成25年12月実施))

・研修の参加人数

①係長研修 第1回総数: 45名、第2回総数: 43名

②課長級研修 11名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績(計画)を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかにすること)。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 城 卓志
管理担当者氏名	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録  病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病歴センター 事務課 各診療科 薬剤部	処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、入院診療要約など医療情報を電子記録化して一元管理している。また、紹介状及び入院診療計画書についてもスキャナーによる読み込みにより電子記録化している。 なお、電子記録化前の手術記録、看護記録、検査所見記録、入院診療要約、紹介状、入院診療計画書等については、カルテに添付して整理、入院分カルテは病歴センターで一括保管し、外来分カルテ及びエックス線写真は各診療科外来診療室において保管している。なお、入院カルテ及び外来カルテとも1診療科1カルテの形態で作成され、保管されている。 処方せんについては、薬剤部において保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	事務課	/
	高度の医療の提供の実績	事務課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務課	
	高度の医療の研修の実績	事務課	
	閲覧実績	事務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課	
第規一則号第一に掲げる十一の体制第一の確保各号及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	/
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室	
	医療に係る安全管理を行う部門の配置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御室
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室
	第一項各号及び第九條の二十三	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室
	第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	物品供給センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	物品供給センター
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	物品供給センター	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	物品供給センター	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
閲覧責任者氏名	事務課長 岩田 淳
閲覧担当者氏名	事務課事務係長 大橋 達哉
閲覧の求めに応じる場所	事務課事務係
閲覧の手続の概要	
諸記録の閲覧に関する責任者、担当者、及び閲覧の求めに応じる場所を定め、閲覧の求めに応じる場所の入口に掲示している。閲覧の求めがあった際は、閲覧責任者の許可のもと、閲覧担当者にて諸記録の公開を行う。	

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	① 有 ・ 無
・ 指針の主な内容： (別紙資料2を参照)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機関における安全管理に関する基本的考え方</li><li>・ 安全管理委員会・その他の組織に関する基本的事項</li><li>・ 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針</li><li>・ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li><li>・ 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li><li>・ 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li><li>・ 患者からの相談への対応に関する基本方針</li><li>・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li><li>・ 本指針の周知ならびに見直し及び改訂</li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： (別紙資料3を参照)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 安全管理体制の確保に関すること</li><li>・ 安全管理のための教育・研修に関すること</li><li>・ 医療事故防止のための周知・啓発及び広報に関すること</li><li>・ 医療事故の事例検討及び事故防止策に関すること</li><li>・ 医療事故発生時における検証と再発防止策に関すること</li><li>・ 医療事故等の公表に関すること</li><li>・ その他医療事故防止に関すること</li></ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 22 回
・ 研修の主な内容： (別紙資料4を参照)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 安全管理に関する研修 (全職員対象：新規採用者・中途採用者・研修医・研究医含む)</li><li>・ 医療事故防止講演会</li><li>・ 危機管理研修会 (重大事例報告会)</li><li>・ 医薬品安全管理研修会</li><li>・ 看護部における医療安全の教育</li></ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無)	
・ その他の改善のための方策の主な内容：	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ リスクマネジメントマニュアルの定期的な見直し (追録・修正)</li><li>・ 安全管理に関する自己点検評価報告書の策定・まとめ</li><li>・ 事故収集による分析 (定量および定性分析) ・ 対策・実施</li><li>・ RMニュースの発行</li><li>・ eラーニングの実施</li><li>・ 院内医療安全巡視</li><li>・ 暴力対策の実施</li><li>・ 医療安全全国共同行動参加にてワーキング活動</li></ul>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	⑤ 有 ( 3 名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	⑥ 有 ( 4 名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	⑦ 有 ・ 無
・ 所属職員： 専任 ( 3 ) 名 兼任 ( 4 ) 名	

・活動の主な内容：

- ・安全確保のための研修会や講演会の企画・運営
- ・医療事故防止等検討委員会やリスクマネージャー会議の企画・運営（資料・議事録の作成及び保存）
- ・医療事故防止のための、未然防止策の検討や事故後再発防止策の検討・策定・実施・評価
- ・リスクマネジメントマニュアルの改訂
- ・医療安全巡視の計画・実施・評価
- ・職員への安全意識の向上のための教育システム（eラーニング）の掲載・成績把握・職場への周知
- ・説明・同意文書の見直しの企画・運営等
- ・重大医療事故後の原因分析や再発防止策のための各部署との検討会、各関連科との連携
- ・患者相談室との連携

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

① ・ 無

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の整備状況	①・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： (別紙資料5を参照)</li> <li>・ 患者とその家族、職員、委託職員、学生等院内すべての人々を院内感染から守るための効果的予防及び管理を実践する。</li> <li>・ 手指衛生をはじめとする標準予防策、あるいは必要に応じて感染経路別予防策を追加しての実践や、抗菌薬の適正使用を推進できるよう、医療従事者全員に指導・教育を徹底する</li> <li>・ 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容： (別紙資料6を参照)</li> <li>・ 委員会は、院内における感染症の感染予防対策に関する次の事項について審議し、方針を決定する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 感染防止対策マニュアルの改訂</li> <li>(2) 全職員を対象とした感染防止教育と啓発</li> <li>(3) 各職種、各部門の予防対策に関し、必要と思われる事項</li> <li>(4) 職業感染予防の策定</li> <li>(5) 院内感染発生時の改善策について病院職員への周知</li> <li>(6) その他管内感染に関する重要事項</li> </ol> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 22 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：</li> <li>(1) 院内感染対策講演会の開催 毎年2回、全職員を対象に院内感染対策の意識向上を図るため講演会を開催する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①平成25年 6月12日 「平成24年度当院の院内感染情報報告」 講師：脇山直樹 臨床検査技師 (名古屋市立大学病院 感染制御室・中央臨床検査部) 塩田有史 薬剤師 (名古屋市立大学病院 感染制御室・薬剤部) 長崎由紀子 看護師 (名古屋市立大学病院感染制御室) 中村 敦 医師 (名古屋市立大学病院 感染制御室)</li> <li>②平成26年 2月 7日 「多職種連携による感染制御の成果」 講師：村上啓雄医師 (岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター)</li> </ol> </li> <li>(2) 毎年4月に、新規採用職員に対して院内感染対策に関する研修会を実施する。 平成25年4月2日 新規採用職員研修 院内感染予防対策講義、手洗い・個人防護具着脱演習</li> <li>(3) 毎年2回、中途採用者に対して院内感染対策に関する研修を行う。 平成25年 7月18日 安全管理・感染管理研修「感染予防対策」 平成26年 2月5日 安全管理・感染管理研修「感染予防対策」</li> <li>(4) その他の研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護部感染対策リンクナース会におけるリンクナース教育 <ol style="list-style-type: none"> <li>平成25年6月3日 講義 「標準予防策」</li> <li>平成25年7月1日 講義 「感染経路別予防策」</li> <li>平成25年9月2日 講義 「滅菌・消毒・洗浄、耐性菌対策」</li> <li>平成25年11月11日 講義 「インフルエンザ、感染性腸炎」</li> <li>平成26年1月6日 講義 「結核」</li> </ol> </li> <li>・ 看護職員に対する教育 (看護セミナーXI 感染管理) <ol style="list-style-type: none"> <li>平成25年8月15日 講義 「感染と保菌、標準予防策のポイント」</li> <li>平成25年10月31日 講義 「感染経路別予防策、結核疑い患者の対応」</li> <li>平成25年12月12日 講義 「針刺し防止対策/インフルエンザ」</li> <li>平成25年2月15日 講義 「抗菌薬療法と看護」</li> </ol> </li> </ul> </li> </ul>	

- ・ナースエイド（看護補助者）研修会 ナースエイド対象  
平成26年3月11日 安全管理と個人情報保護、感染予防策
- ・委託職員研修会 清掃担当職員対象  
平成25年12月4～11日 環境整備・環境清掃 ーファシリティ・マネージメントー
- ・NCU Infection Seminar 若手医師・研修医・コメディカル対象  
平成25年 5月16日 「感染症診療のロジック」  
講師：国立国際医療研究センター国際感染症センター 大曲貴夫先生  
平成25年7月18日 「微生物検査データ活用していますか、活用されていますか」  
講師：JA愛知厚生連 医療事業部専門官 犬塚和久先生  
平成25年9月19日 「よくみる消化管感染症 ーピロリ菌からディフィシル、ノロウイルスまでー」  
講師：名古屋市立大学大学院医学研究科 谷田諭史医師  
平成25年 11月21日 「ワクチンによる感染制御を考える」  
講師：愛知医科大学大学院医学研究科臨床感染症学 三嶋廣繁先生  
平成26年 1月16日 「尿路感染症を科学する」  
講師：藤田保健衛生大学病院 石川清仁医師  
平成26年 3月20日 「呼吸器感染症のケーススタディ」  
講師：名古屋市立大学病院感染制御室 中村敦医師

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無
- ・その他の改善のための方策の主な内容：
  - ・感染対策チーム会は、次に掲げる事項について感染対策委員長より権限を委譲されている。
    - (1) 感染予防の実施、監督及び指導
    - (2) 院内感染発生時の発生原因の分析、改善策の立案及び実施
    - (3) 感染症発生状態の把握
  - ・感染制御室を中心とした感染対策チーム（ICT）に、微生物検出状況、現場での感染症状を呈する患者の状況が報告され、ICTは横断的活動の権限をもって、状況確認、情報収集し、対策を検討する。現場の実施に対し、指導・助言をする。
  - ・ICTにより現場のラウンドを実施し、感染対策上の問題の早期改善に向ける。
  - ・職業感染防止策を積極的に導入・実践していくことで、職員が感染源となる感染予防対策を強化する。
  - ・抗菌薬の使用動向を監視し、適正使用に向けた診療支援を行う。



(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>新人看護師向け薬剤研修会 平成25年4月4日（木）15時45分～16時30分（病院第1会議室） 内容：管理が必要な医薬品・与薬時の注意点・薬剤師による情報提供など（調剤室担当薬剤師）</p> <p>新人看護師向け薬剤研修会 平成25年6月10日（月）9時50分～10時20分（病院第1会議室） 内容：病棟薬剤師の役割（病棟薬剤主査）</p> <p>新人看護師向け薬剤研修会 平成25年6月10日（月）11時～11時30分（病院第1会議室） 内容：入院支援センターでの薬剤師の役割（入院支援センター担当薬剤師）</p> <p>医薬品安全管理講習会 平成25年7月9日（火）17時30分～18時30分（病院大ホール） 内容：麻薬の取扱いについて（麻薬業務担当薬剤師） 最新のオピオイドローテーションの考え方（緩和ケア担当薬剤師）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・手順書の作成 (有・無)</p> <p>・業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 薬剤部の業務 薬剤部の業務については『薬剤部業務マニュアル(新病院総合マニュアル 第8章 薬剤部門)』に従う。</li><li>2. 医薬品の採用 医薬品の採用については『薬事委員会規約』及び『名古屋市立大学病院薬事委員会運営申し合わせ事項』に従う。</li><li>3. 医薬品の管理 薬剤部における医薬品の管理については『薬品管理業務マニュアル』、『調剤マニュアル』、『調剤マニュアル(簡易版)』、『調剤薬補充・管理マニュアル』に従う。 また、病棟・外来においては薬品管理者(責任医師、看護師、薬剤師)を配置し、『各部門の薬品管理担当者による医薬品の管理および確認について』に従う。 毒薬、向精神薬(第2種)、麻薬についてはそれぞれ『毒薬管理手順書』、『第2種向精神薬・毒薬(筋弛緩薬)管理マニュアル』、『麻薬管理マニュアル』に従う。</li><li>4. 病棟・各部門への医薬品の供給 病棟・部門への医薬品の供給については『薬品管理業務マニュアル』、『各部門の薬品管理担当者による医薬品の管理および確認について』に従う。</li><li>5. 外来患者への医薬品の供給 外来患者への医薬品の供給については『調剤マニュアル』に従う。</li><li>6. 入院患者への医薬品の供給 医薬品の患者への投与については『与薬に関するマニュアル(看護手順 8. 与薬の看護技術)』に従う。</li><li>7. 入院患者への医薬品の情報提供 入院患者への医薬品の情報提供については『薬剤管理指導マニュアル』、『疾患別薬剤管理指導マニュアル(案)』に従って薬剤師は患者へ服用薬の情報を提供する。</li><li>8. 医薬品情報の収集・管理・提供 医薬品情報の収集・管理・提供については『名古屋市立大学病院における医薬品情報管理マニュアル』に従う。</li><li>9. 他の医療機関・調剤薬局との連携 他の医療機関・調剤薬局との連携については『院外薬局から送られた後発医薬品変更のFAXの管理(新病院総合マニュアル 第19章 医療・福祉地域連携室)』、『薬剤管理指導マニュアル』および『薬業連携のための地域の薬剤師会との検討会について』に従う。</li><li>10. 抗がん剤の管理・調製 抗がん剤の管理・調製については、『抗がん剤調製マニュアル(入院用・外来用)』および『抗がん剤レジメンチェックマニュアル』に従う。</li><li>11. 感染対策 感染対策については、『抗菌薬適正使用マニュアル』、『術後抗生剤投与マニュアル』および『抗MRSA薬使用の手引き』に従う。</li><li>12. 中心静脈栄養(TPN)調製 中心静脈栄養(TPN)調製については、『中心静脈栄養(TPN)無菌混合調製マニュアル』に従う。</li><li>13. 入院時の持参薬 入院時の持参薬については、『入院支援センターマニュアル(新病院総合マニュアル 第25章)』および『持参薬管理マニュアル』に従う。</li><li>14. 危険薬 危険薬の定義については、『本院における危険薬一覧』に従う。</li><li>15. 処方せんの記載方法 処方せんの記載方法については、システム操作マニュアル 第6章 オーダリングツールの『6.1 処方オーダー』および『6.7 注射オーダー』に従う。</li></ol>	

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無)

・ その他の改善のための方策の主な内容：

① 医薬品適正使用のための注意喚起

薬事委員会において、本院で発生した有害事象についての報告および再発防止対策の周知を適宜実施している。

② 院内安全性情報の活用

本院に重要と考えられる安全性情報について、安全性情報に基づく必要な対応（検査の実施・患者への説明等）について薬剤師が該当患者のカルテ上に記載して、医師に対応を求める取り組みを実施している。平成25年度には、安全性速報2件（「ケアラム錠 25mg/コルベット錠 25mg（イグラチモド）とワルファリンとの相互作用が疑われる重篤な出血について（2013年5月 13-01号）」および「月経困難症治療剤ヤーズ配合錠による血栓症について（2014年1月 13-02号）」）を含む3件について実施した。

③ 医療安全全国共同行動の「医薬品の誤投与防止」への取り組み

医療安全全国共同行動の「医薬品の誤投与防止」への取り組みに沿った改善活動として、医師・薬剤師・看護師等の多職種による検討を行い、以下の点について実施した。

- ・ インスリン持続静注液の濃度の統一
- ・ 電子カルテの薬品情報欄を用いた、医師のオーダー時に合わせた配合変化情報の提供

④ 抗がん剤の管理・調製

薬剤部にすべての抗がん剤使用レジメンの登録管理を行っている。かつ外来および入院のすべての抗がん剤使用患者の抗がん剤の調製も行っている（休日含む）。抗がん剤使用患者に対する薬学的管理（入院患者はもちろん、外来患者への説明を含む）を実践している。また陰圧アイソレーター（ケモシールド®）を使用することにより、ファシールを使用することなく揮発性の抗がん剤（エンドキサン注®等）を安全に調製できる作業環境を提供している。

⑤ 入院支援センターの設置

平成24年10月1日に、これから入院される方への案内と入院当日の受付、入院時の持参薬確認を集約して一か所で行う「入院支援センター」を設置し、持参薬管理を目的とした薬剤師による面談を全入院予定患者で実施している。薬剤師による面談は入院時だけでなく、入院決定日にお薬手帳などの情報をもとに術前中止薬を把握することを目的とする「入院前の服用薬確認」も実施されており、これらの運用により持参薬の服用状況および術前休止薬の確認が実施されるため、院内全体での持参薬に関する情報の共有・安全管理が可能となった。

平成25年度の服用薬確認件数（1月あたり）：入院時615件、入院前243件

⑥ リスクマネジメント関連情報の発信

院内配布のRMニュース「おくすりのはなし」の項に薬物取扱・使用における安全管理の留意点を定期的（3か月に1回の割合）に継続連載して、院内医療関係者への注意喚起を実施している。

⑦ 医療安全教育（医薬品に関する安全教育）の実施

医療安全管理室が主催する医療安全教育（電子カルテを用いたe-ラーニング）に参加し、全職種を対象に医薬品に関する安全教育を実施している。平成25年度は「院内製剤について～普段使っているくすりとは何が違うのか？～」を実施した。

⑧ 薬薬連携の取り組み

薬薬連携のための地域の薬剤師会の薬剤師との検討会を定期的実施して、疑義照会事例・新規採用薬情報・地域連携クリニック（がん地域連携パス）などについて意見交換を行っている（平成25年度は計4回実施）。

⑨ 部門ごとの医薬品管理者の選定

各部門ごとに医師・看護師・薬剤師の3者の医薬品管理者を選定し、医薬品適正管理（定数医薬品の見直しを含む）を実施している。さらに管理担当薬剤師からは、毎月発行の「医薬品情報誌」を用いた医師、看護師への情報提供も行っている。平成23年度からは部門における医薬品管理の問題点の収集と情報共有を目的として、医薬品管理者（医師・看護師・薬剤師）による3者ミーティングも実施している。

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 175 回
<p>・研修の主な内容：（別紙資料7参照）</p> <p>I. 新しい医療機器の導入時の在職職員に対する取扱研修。  II. 人工心肺装置、人工呼吸器、保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置等の特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する在職職員に対する取扱研修。  III. 新規採用職員に対するシリンジポンプ、輸液ポンプ等の医療機器の取扱研修及び在職職員に対する随時研修。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・計画の作成 ①・無</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <p>I. 人工呼吸器、除細動器、保育器等のMEセンター管理機器については、使用后MEセンターに返却の都度もしくは一定の点検期間毎に、保守点検を実施している。  II. 診療用高エネルギー放射線発生装置などその他の医療機器については、業者による定期点検を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 ①・無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>I. (i) 医療機器に係る院内のインシデント・アクシデント情報、(ii) メーカーから直接寄せられるリコール情報、(iii) 医薬品医療機器総合機構から発信される情報等については、医療安全管理室へ一元的に集約され、同室及び臨床工学室が中心となり各部署への情報発信及び対策を実施している。  II. 機器の安全使用の観点から、中央管理する機器については、標準化を図っている。  III. 医療安全全国共同行動に参加し、輸液ポンプ・シリンジポンプの安全管理に関して活動計画を立て検討を行い実施した。  IV. 医療機器の使用に係る医療事故の発生を防ぐことを目的として作成した医療機器使用マニュアルの適宜見直しを行った。</p>	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	① 有 ・ 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期	
評価を行った機関名：公益財団法人 日本医療機能評価機構 評価を受けた時期：2013年8月2日 (初回認定：2008年2月18日) 備考：認定第JC1440-2号 一般病院2 機能種別版評価項目3rdG：Ver. 1.0	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	① 有 ・ 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要	
【病院HP等】 ○病院HPに当院のご案内、最新のお知らせ、患者・一般向け、医療関係者向けの情報を掲載している。 ○愛知県が管理する「あいち医療情報ネット」に診療時間や診療科目等の情報を掲載している。	
【院外広報紙】 ○「さくらほっとNEWS」を刊行(年4回程度)し、当院の最新情報やお知らせを、患者や地域の住民向けに発信している。病院HPへの掲載、院内窓口での配布、院外(近隣病院、市内区役所等)及び職員向けに配布している。 ○「名古屋市立大学病院臨床シミュレーションセンターNEWS」を刊行(年4回程度)し、当院におけるシミュレーション教育の内容について発信している。病院HPへの掲載、院内及び院外(近隣病院)向けに配布している。	
【公開講座等】 ○「患者情報ライブラリーセミナー」(年6回程度)や、各科による公開講座(不定期)について、疾患に対する理解を深めるため、患者や一般市民向けに開催している。 病院、大学HPに開催情報が掲載される。 ○国際福祉健康産業展「ウェルフェア」の開催に伴う併催行事として講演会・セミナー・ワークショップが開催されており、当院の職員が講師となって講演を行っている。病院HPに開催情報が掲載される。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	① 有 ・ 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	
○診療にあたる際、必要に応じて複数の診療科による合同のカンファレンスを実施している。 ○全診療科の代表者を含む各種委員会を定期的に開催している。 ○複数の診療科によって組織する「センター」機能を有し、診療科ごとの特性を融合することにより、特色となる診療を実施したり、診療の支援業務や教育・研究業務などを行っている。 ○医療安全、感染、栄養サポート(NST)、褥瘡等に対して複数の診療科、職種を交えてチームを組み、対策を行っている。 ○診療連携拠点病院(肝疾患、地域がん)として都道府県における診療ネットワークの中心的な役割を果たす病院である。また、災害拠点病院として地域における災害医療を担っている。 ○救命救急センターとして24時間高度な医療が提供できるよう、全診療科及び全部門が連携して救急医療のバックアップ体制を整えている。各診療科合計で日中25名、夜間・休日21名の医師が待機していることに加え、看護師、薬剤師、X線技師、検査技師等の医療技術者も待機しており、常時迅速な引継が可能である。	

年度別研修一覧

<新人・現任教育>

研修名	日程	時間数	種類	参加	テーマ	対象者
新規採用者研修	2013/04/01～2013/04/22		院内教育(新人)	117	事務課・総務課研修 看護部の概要、看護業務と法的責任、目標管理、看護倫理 与薬の基礎、看護記録と法的責任、電子カルテと看護記録、看護必要度 <技術研修> フィジカルアセスメント、全身清拭、ボディメカニクス、点滴管理とミキシング、移送、 酸素吸入、滅菌操作、皮下注射	平成25年度新規採用者
新規採用者宿泊研修	2013/04/24～2013/04/25 2013/04/25～2013/04/26	1泊2日	院内教育(新人)	110	グループ討議「わたしはこんな看護を実践したい」	平成25年度新規採用者
新人研修(採血・ME)	2013/05/13 2013/05/21	7:00	院内教育(新人)	110	新人技術研修 採血、ME機器	平成25年度新規採用者
新人研修(輸血、安全I)	2013/05/30 2013/06/06	7:00	院内教育(新人)	110	新人研修KYT、輸血、吸引	平成25年度新規採用者
新人研修(導尿)	2013/07/18 2013/07/19	2:20	院内教育(新人)	110	新人技術研修(導尿)	平成25年度新規採用者
新人BLS研修	2013/06/13 2013/06/17 2013/06/27	3:00	院内教育(新人)	111	新人対象の緊急時の看護・コードブルーの要請など	平成25年度新規採用者
静脈注射I	2013/08/16 2013/08/19	3:00	院内教育(新人)	110	末梢静脈ロック中の留置針からの一時点滴 側管注射、翼状針穿刺による一時点滴	平成25年度新規採用者
新規採用者スキルアップ(皮下注射)	2013/06/04 2013/07/02	1:00	スキルアップ(新人)	13	自主研修	平成25年度新規採用者
新規採用者スキルアップ(採血)	2013/06/11	1:00	スキルアップ(新人)	30	自主研修	平成25年度新規採用者
新規採用者スキルアップ(採血)	2013/06/21	1:00	スキルアップ(新人)	30	自主研修	平成25年度新規採用者
新規採用者スキルアップ(ME)	2013/06/28	1:00	スキルアップ(新人)	22	自主研修	平成25年度新規採用者
多職種との連携	2013/06/10	7:45	院内教育(新人)	107	S P D、リネンセンター、入院支援センター、地域連携室との関わりと看護師の役割を学ぶ	平成25年度新規採用者
フォローアップI	2013/07/29 2013/07/30	4:00	院内教育(新人)	108	セルフマネジメント講義 グループ討議「3か月を振り返って」	平成25年度新規採用者
フォローアップII	2013/10/25 2013/10/28	4:00	院内教育(新人)	107	グループ討議「6か月を振り返って」 キャリアデザイン講義	平成25年度新規採用者
安全管理研修II(インシデントKYT)	2013/06/24 2013/07/01	4:00	院内教育(現任)	118	看護業務と法的責任、看護の安全性とKYT、インシデントKYT演習	採用2年目職員
静脈注射II	2013/10/08 2013/10/17	3:00	院内教育(現任)	117	静脈留置針留置	採用2年目職員その他所属部長が必要と認めたもの
安全管理研修II発表会	2013/11/25 2013/11/29	4:00	院内教育(現任)	116	職場内研修報告会	採用2年目職員
症例検討	2013/05/20 2013/05/23	1:30	院内教育(現任)	95	症例検討研修説明	採用3年目職員
症例検討発表会	2013/12/02 2013/12/09	7:00	院内教育(現任)	93	症例検討発表会 グループ討議「看護過程」	採用3年目職員
プリセプター	2014/01/20 2014/01/23	4:00	院内教育(現任)	78	講義：新人看護職員研修ガイドライン 演習：相手に気づかせる関わり方	26年度プリセプター予定者
プリセプターエイド	2013/12/16 2014/02/27	11:00	院内教育(現任)	53	講義：新人看護職員研修ガイドライン 成人教育 演習：新人看護職員教育計画作成 グループ討議：チームで新人を育成するための働きかけ	ラダーレベルⅡ認定以上 26年度プリセプターエイド予定者
プリセプターフォローアップ	2013/08/29 2013/08/30	4:00	院内教育(現任)	67	対象に合わせた指導方法など(外部講師研修)	25年度プリセプター研修受講者
リーダーI	2013/11/07	4:00	院内教育(現任)	113	講義：看護過程、日々リーダーの役割 グループ討議：関連図の作成、リーダーシップ状況シミュレーション	ラダーレベルⅠ認定済みのもの
リーダーII	2013/09/09	4:00	院内教育(現任)	48	講義：メンバーの魅力を引き出すリーダーシップ カンファレンスのファシリテーション 演習：模擬カンファレンスロールプレイ	ラダーⅡ認定済みのもの
リーダーIII	2013/07/10～2013/07/12	2泊3日	院内教育(現任)	32	看護の魅力を引き出すリーダーシップ(固定チームチームリーダー育成) 講義：中堅看護職員に期待すること、看護の魅力を引き出すリーダーシップ グループ討議：心に残る看護体験、体験学習ゲーム、看護の魅力を引き出そう！	ラダーレベルⅢ～Ⅳ
リーダーIII	2014/02/24	4:00	院内教育(現任)	14	職場内研修報告会 「看護の魅力を引き出すために取り組んだこと」	
臨床指導者研修	2013/08/08 2013/08/15	3:30	院内教育(現任)	98	講義：看護教育における臨地実習の位置づけと学生の特徴 グループ討議：良い指導に必要な関わり	ラダーレベルⅠ その他所属部長が必要と認めた場合

<看護セミナー>

研修名	日程	(H)	区分	種類	テーマ	参加条件
II(呼吸・循環)	2013/09/11	0:45	院内	12	指導に活かせるフィジカルアセスメント 呼吸編	ラダーレベルⅢ～Ⅳ(チャレンジ中含む)
II(呼吸・循環)	2013/11/07		院内	20	指導に活かせるフィジカルアセスメント 呼吸編	ラダーレベルⅢ～Ⅳ(チャレンジ中含む)
II(呼吸・循環)	2013/12/10	0:45	院内	11	指導に活かせるフィジカルアセスメント(循環編)	ラダーレベルⅢ以上(チャレンジ中含む)
II(呼吸・循環)	2014/02/21		院内	11	人工呼吸器セミナーE100	E100を使用する、成人病棟職員 ラダーレベルⅠ～Ⅱ(チャレンジ中含む)
II(呼吸・循環)	2014/03/14		院内	51	モニター心電図の正常と異常	特になし
II(呼吸・循環)	2014/03/17		院内	7	人工呼吸器セミナーE500	E500を使用する小児病棟(9S・9N・14S)職員 ラダーレベルⅠ～Ⅱ(チャレンジ中含む)
V(褥瘡予防)	2013/09/20	1:00	院内	19	褥瘡予防対策に必要なスキンの知識	対象：部署内で褥瘡ケアに中心的に関わる看護師 参加可能人数：25名まで
V(褥瘡予防)	2014/01/10	1:00	院内	28	褥瘡症例検討会	

VI (がん看護リハ)	2014/03/05	1:00	院内	22	浮腫のある患者の看護 研修目標 ①リンパ浮腫との鑑別ができる ②リンパ浮腫のケア介入ができる ③ターミナル期の看護を考慮することができる ④弾性ストッキングの着用仕方・管理方法 看護研究倫理	
X (看護研究)	2013/08/26	1:00	院内	43	看護研究を行う際の倫理的配慮と、看護部倫理委員会における研究倫理審査について説明します	
X (看護研究)	2013/06/25	0:30	院内	40	研究計画書の書き方を学ぼう！ 院内看護研究会提出用研究計画処に沿って、記載方法を説明	ラダーレベルⅡ～Ⅲ これから研究計画書を書く人、書き方で困っている人にオススメ！
XⅡ (記録・情報)	2013/06/03 2013/06/06 2013/06/07	0:55	院内	16	POSとSOAPについて 事例に沿ってSOAPを記載	
XⅣ (災害：シミュレーション)	2014/01/24	1:15	院内	5	災害発生時の初動行動のシミュレーション学習	
XⅠ (感染管理)	2013/08/15	1:00	院内	62	感染と保菌／標準予防策のポイント 入院患者の日常生活で実施すべき感染対策について例を挙げてお話しします。	ラダーレベルⅡ・Ⅲチャレンジ中
XⅠ (感染管理)	2013/10/31	1:00	院内	46	経路別予防策／結核疑い患者の対応について 接触感染対策、飛沫感染対策、空気感染対策の3つの経路別予防策の内容と実際の看護援助に行かせる具体的な対策をマニュアルの内容をふまえながら学習します。	
XⅠ (感染管理)	2013/12/12		院内	8	「針刺し防止対策／インフルエンザ」について	ラダーレベルⅠ～Ⅲ (チャレンジ中含む)
その他学習会 (セミナー)	2014/03/04		院内	13	周術期合併症と看護	ラダーレベルⅢ～Ⅳ (チャレンジ中含む)
看護セミナーⅢ (NST)	2013/11/12	0:45	院内	6	化学療法中、食事摂取生涯の工夫と対策を考える	ラダーⅡ・Ⅲ 研修内容を部署で活用してもらえらる方
看護セミナーⅢ (NST)	2013/12/12	0:45	院内	10	摂食・嚥下のしくみと観察ポイント 目標：摂食・嚥下障害のリスクのある患者に気づくことができる。摂食・嚥下の原因から観察ポイントを理解する。	ラダーⅡ以上 (ラダーⅡ認定チャレンジ中も含む)
看護セミナーⅢ (NST)	2014/01/22	0:45	院内	7	摂食・嚥下障害への基本的な考え方を理解し援助ができる。摂食・嚥下のしくみについて画像を観ながら学ぶ 摂食・嚥下障害の基本的な考え方と、間接訓練・直接訓練の実際	研修内容を部署で活用できるようにラダーⅡ・Ⅲの方の参加をお願いします。
看護セミナーⅢ (NST)	2013/10/10	0:45	院外	22	栄養サポートチーム① 食欲不振について— それ本当に必要ですか—	
院内BLS研修	2014/01/22 2014/02/12		院内	45	看護部BLS	3年目看護師
BLSインストラクター養成研修	2014/02/26 2014/03/26		院内	11	BLSインストラクター養成研修	インストラクターを目指す看護職員で1年以内のBLS研修未受講者

<マネジメントに関わるもの>

研修名	日程	(H)	種類	参加	テーマ	対象者
師長研修	2014		管理者教育	27	目的：他の看護師長の管理の実際を知ることで、自分自身の管理を振り、今後に活かす	看護師長
師長研修 (新任)			管理者教育	4	目的：管理者としての姿勢・行動を学ぶ 講義：管理者の役割 看護管理の実際	新任看護師長
主任研修	2013/07/08 2013/09/08 2013/09/15	11:00	管理者教育	72	目的：部署の看護の質を改善するために、主任としての役割を果たすことができる 講義：主任の役割 グループ討議：看護の質を改善するために必要な主任の役割 外部講師研修	現在、主任職にあるもの
主任研修	2014/02/01	4:45	管理者教育	72	主任研修活動報告会	現在、主任職にあるもの
主任研修 (新任)	2013/06/03	3:30	管理者教育	3	新任主任研修 主任に期待すること リスクマネジメント 人材育成	平成25年度新任主任
マネジメント研修	2014/03/23	7:00	院内教育 (現任)	77	問題解決技法を学ぶ (外部講師研修) 2014/12まで職場内研修継続	ラダーレベルⅢ認定済み以上

# 1 医療に係る安全管理のための指針

名古屋市立大学病院における医療に係る安全管理を推進するため、本指針を定める。

## 1. 医療機関における安全管理に関する基本的考え方

市立大学病院は、患者さんの貴重な生命を預かる病院として、安全で安心できる質の高い医療を提供する使命がある。特定機能病院として高度な医療の提供や教育を実施する中で、責任体制や役割分担を明確にし、病院全体で安全管理の徹底を図り、職員一人ひとりが患者さんを中心とした安全管理を意識し、医療事故防止に取り組んでいく。当院に勤務する全ての職員に対して、より安全な医療の提供と患者満足度の向上を第一にした医療安全活動を再認識させ、安全に対する意識を高めマニュアルを遵守した改善・改革を推進していくことを安全管理の基本方針とする。

## 2. 安全管理委員会・その他の組織に関する基本的事項

本院の安全管理体制の確保及び推進のため、病院長を統括安全管理者、副病院長（安全管理担当）を安全管理指導者とする。また、医療の安全性の確保と適切な医療を提供するとともに、病院機能の向上と運営改善に資するために、医療安全管理室を設置する。医療安全管理室は、医療安全を組織横断的に推進し、適切かつ効率的に事故防止を図り、安全管理を行う。

当院全体の医療安全管理について検討・審議を行う医療事故防止等検討委員会、病院長から任命された各部門のリスクマネージャーを中心に活動する周知徹底機関としてリスクマネージャー会議を設置し病院全体で継続的に取り組んでいくものとする。それらの組織、運用についてはそれぞれ別に規程を設ける。

## 3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針

- 1) 医療事故防止等検討委員会は、予め作成した研修計画に従い 1 年に 2 回程度の全職員を対象とした医療安全管理のための研修を定期的実施する。
- 2) 研修は、医療安全管理の基本的な考え方、事故防止の具体的な手法等を全職員に周知徹底することを通じて、職員個々の医療安全意識の向上を図るとともに、当院全体の医療安全を向上させることを目的とする。
- 3) 職員は、研修が実施される際には、極力、受講するよう努めなくてはならない。
- 4) 病院長は、当院で重大医療事故が発生した場合や必要があると認めた場合は、臨時で、報告会を開催し全職員に対して情報を提供する。
- 5) 医療安全管理のための研修の実施方法としては、外部講師を招聘しての講習会、院内での事例または医療安全取り組み報告会、医薬品安全管理・医療機器安全管理に関する研修会等実施する。

#### 4. 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針

- 1) 医療安全管理の推進に必要な事項を定めた、「リスクマネジメントマニュアル」を作成し、医療事故防止対策に活用する。
- 2) インシデント・アクシデントの報告は、リスクマネジメントマニュアルに基づき医療事故等へ結びつく可能性のある事例を院内から広く集約し、その要因を分析することにより、医療事故等の防止を図るとともに、リスクマネジメントに対する病院全体の意識の高揚を図るものとする。
- 3) 報告された事例は、医療安全管理室でとりまとめ、医療事故防止等検討委員会で事例の把握ならびに原因分析に基づいた防止対策・改善策について審議し、リスクマネージャー会議やRMニュースを通じて院内に再発防止策を周知徹底する。
- 4) インシデント・アクシデントレポートは、報告により当事者が不利益を受けないことを担保するために、原則非公開とする。

#### 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針

- 1) 医療事故等が発生した場合は、当院の総力を結集して、患者の救命と被害の拡大防止に全力を尽くす。また、当院内のみでの対応が不可能と判断された場合には、遅滞なく他の医療機関の支援を求めるものとする。
- 2) 患者・家族への説明は、事故発生後、救命措置の遂行に支障を来たさない限り可及的速やかに、事故の状況、現在実施している回復措置、その見通し等について各担当医・部門長等が誠意をもって正確に説明する。
- 3) 重大医療事故が発生した場合には、発生した事故情報の把握、原因究明、対応策及び再発防止策の検討を速やかに図るため、「重大医療事故報告制度の流れ」に基づき対応する。
- 4) 対応した職員は、その事実および説明内容を診療録に記録する。

#### 6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針

医療安全管理のための理念をホームページに掲げるとともに、「名古屋市立大学病院医療事故等公表基準」に基づき医療事故等を公表することにより、より透明な、より安全な医療システムを確立し、尊い生命を預かる病院として信頼できる質の高い医療を提供する。

#### 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針

- 1) 患者及びその家族から医療に関する相談に対して適切な対応及び情報提供等の支援を行うために、患者相談室を設置する。誠実に対応するとともに相談により患者等が不利益を被らないこと及び患者等の情報の保護のために適切な配慮を講じるものとする。
- 2) 医療安全に関わる苦情や相談については、医療事故防止等検討委員会やリスク



マネージャー会議等に詳細に報告し当院の医療安全対策の見直し等に活用する。

#### 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針

医療安全をより推進させるために、「リスクマネジメントマニュアル」は定期的（年1回）及び随時改訂し、その内容を病院全職員へ周知・徹底する。また、医療安全確保体制の見直しを行うとともに、他機関からの情報収集に努め医療安全の改善・推進を図る。

#### 9. 本指針の周知ならびに見直し及び改訂

- 1) 本指針の内容は、医療事故防止等検討委員会を通じて、全職員に周知徹底する。
- 2) 医療事故防止等検討委員会は、少なくとも毎年1回以上、本指針の見直しを議事として取り上げ検討するものとする。

附 則

本指針は、平成19年12月1日から施行する。

附 則

本指針は、平成23年4月14日から施行する。

附 則

本指針は、平成26年5月20日から施行する。

### 1 設置

名古屋市立大学病院（以下「本院」という。）に、医療事故等の防止及び患者の安全確保を目的として、医療事故防止等検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### 2 組織

- (1) 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。
- (2) 委員長は、病院長とし、副委員長は、副病院長（安全管理担当）とする。
- (3) 委員長及び副委員長の任期は、病院長及び副病院長の任期と同じとする。
- (4) 委員は、次の各号に掲げる者とする。
  - 一 病院部長会で選出された部長2名（内科系1名、外科系1名）
  - 二 病院長が指定する診療科（内科、外科においては医学部の講座単位とする。）及び中央部門から選出された教員6名〔内科系2名、外科系2名、中央部門1名、感染制御室1名〕
  - 三 物品供給センター長（医療機器安全管理責任者）
  - 四 看護部部長
  - 五 薬剤部長（医薬品安全管理責任者）
  - 六 管理部長
  - 七 医療安全管理室副室長及び主幹（専従）
  - 八 外部有識者2名

### 3 議事

委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 安全管理体制の確保に関すること
- (2) 安全管理のための教育・研修に関すること
- (3) 医療事故防止のための周知、啓発及び広報に関すること
- (4) 医療事故等の事例検討及び事故防止策に関すること
- (5) 医療事故発生時における検証と再発防止対策に関すること
- (6) 医療事故等の公表に関すること
- (7) その他医療事故の防止に関すること

### 4 会議

- (1) 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- (2) 委員長に事故ある時は、副委員長がその職務を代行する。
- (3) 委員会は、委員2分の1以上の出席がなければ開くことができない。
- (4) 委員長が必要と認めるときは、委員以外のものに出席を求め意見を聴くことができる。
- (5) 委員会は、月一回程度開催するとともに、重大な問題が発生した場合は適宜開催する。

### 5 庶務

委員会の庶務は医療安全管理室において処理する。

### 6 その他

この要綱に定めるもののほか、事故防止に関して必要な事項は医療事故防止等検討委員会において定める。

#### 附則

- 1 この要綱は、平成12年1月6日から施行する。
- 2 この要綱施行日に選任された委員長及び指名された副委員長の任期は、この要綱に係らず平成13年3月31日までとする。

#### 附則

この要綱は、平成12年7月6日から施行する。

#### 附則

- 1 この要綱は、平成13年2月1日から施行する。
- 2 この要綱施行日における副委員長は、副病院長が選任されるまでの間、本要綱施行日以前の委員長が職務を代行するものとし、その任期は、副病院長選任時までとする。

#### 附則

この要綱は、平成15年1月7日から施行する。

#### 附則

この要綱は、平成15年4月1日から施行する。

#### 附則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

#### 附則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則  
この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附 則  
この要綱は、平成26年5月20日から施行する。

別紙資料 4

安全管理の体制確保のための職員研修の実績

(平成25年度)

研修区分	開催日	対象職員	参加人数	時間	内容
新規採用者研修	4/1	全職員	202名	6時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院長訓示・講話</li> <li>・ 医療倫理について</li> <li>・ 病院マネジメントについて (個人情報保護について)</li> <li>・ 医薬品の安全管理について</li> <li>・ 診療録管理について</li> <li>・ 保険診療について</li> <li>・ 防災計画について</li> </ul>
	4/2	全職員	189名	6時間15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接遇について</li> <li>・ 医療の安全対策について</li> <li>・ 院内感染対策について</li> </ul>
安全管理研修 I	5/30	新規看護職員	113名	3時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなで学ぼう KYT (講義)</li> <li>・ 4ラウンド KYT (演習)</li> </ul>
緊急時の看護 (BLSとコードブルー養成を含む)	6/13 6/7 6/27	新規看護職員	114名	4時間30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ BLS の実際 (演習)</li> <li>・ コードブルーシステムと要請時の注意</li> <li>・ 気管挿管時の看護 (演習)</li> <li>・ 緊急時の対応 (演習)</li> </ul>
安全管理研修 II	6/24 7/1 11/25 11/29	看護師 2年目	120名	4時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護師としての倫理と責務 (講義)</li> <li>・ 看護の安全性と KYT (講義)</li> <li>・ インシデントレポート KYT (演習)</li> <li>・ 職場内研修 (6月～11月)</li> <li>・ 職場内研修発表会</li> </ul>
危機管理研修会	7/2	全職員	462名	1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重大事例報告会 (医療安全管理室)</li> </ul>
医薬品安全管理における研修会 麻薬講習会	7/9	全職員	240名	1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 麻薬の取り扱いについて (松尾薬剤師)</li> <li>・ オピオイドローテーションについて (丹村薬剤師)</li> </ul>

研修区分	開催日	対象職員	参加人数	時間	内容
中途採用者研修会	7/18	全職員	15名 (資料確認8名)	1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全管理 (中沢副室長)</li> <li>レポート報告について (高木主幹)</li> <li>院内感染予防対策 (中村室長、長崎副室長)</li> </ul>
医療事故防止講演会	8/5	全職員	464名	1時間	<p>テーマ:安全対策の落とし穴:思い込み「～のはず」に潜むワナ</p> <p>講師:田中健次氏 (電気通信大学大学院情報システム学研究科 教授)</p>
静脈注射研修 I	8/16 8/19	看護師 1年目	110名	4時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>静脈内注射実施における看護師の法的責任 (講義)</li> <li>静脈注射に必要な知識と技術他 (講義)</li> <li>側管ワンショット静脈注射 (演習)</li> <li>翼状針一時点滴 (演習)</li> </ul>
静脈注射研修 II	10/8 10/17	看護師 2年目他	117名	2時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>静脈穿刺のための血管のアセスメント</li> <li>静脈穿刺における合併症</li> <li>点滴静脈注射の穿刺と固定に使用する医療機材 (講義)</li> <li>点滴静脈注射の実際 (演習)</li> </ul>
臨時危機管理研修会	12/13	全職員	443名	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大事故報告会 (医療安全管理室)</li> </ul>
第2回医療事故防止講演会	1/7	全職員	476名	1時間	<p>テーマ:全職員で取り組む医療安全～高いリスクと信頼の中で～</p> <p>講師:長尾能雅氏 (名古屋大学医学部附属病院 副病院 医療の質・安全管理部 教授)</p>
BLS研修	1/22 2/12 2/26 3/26	看護職員	44名	1時間20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>BLSの実際 (演習)</li> </ul>
中途採用者研修会	2/5	全職員	17名 (資料確認8名)	1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全管理 (戸澤副室長)</li> <li>レポート報告について (高木主幹)</li> <li>院内感染予防対策 (中村室長、長崎副室長)</li> </ul>

研修区分	開催日	対象職員	参加人数	時間	内容
第2回危機管理研修会	2/5	全職員	497名	1時間45分	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大事例報告会（医療安全管理室）</li> <li>医療安全全国共同行動ワーキング活動報告会（各8グループの発表）</li> <li>AEDの使用方法について（笹野救命救急センター長）</li> </ul>
人工呼吸器の取扱研修	2/21 3/17	看護職員	18名	2時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工呼吸器（E100、E500）の基本的知識と操作方法を学ぶ（演習）</li> </ul>
臨時危機管理研修会	3/26	全職員	423名	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大事例報告会（医療安全管理室）</li> </ul>
安全管理リンクナース会①	6/20	看護師	30名	2時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>はじめに 担当委員挨拶</li> <li>今年度の安全管理リンクナース会活動目標・計画について</li> <li>グループワーク（テーマ：ダブルチェックが基準通りに行えない状況はどんな時？どうしたら基準通りに確認出来る？）</li> </ul>
安全管理リンクナース会②	8/15	看護師	32名	2時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>注射薬ダブルチェック方法の基準化について</li> <li>転倒転落事故防止について</li> </ul>
安全管理リンクナース会③	10/17	看護師	30名	2時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>グループ討議（注射薬ダブルチェックラウンド実施後の意見交換、根拠に基づいたダブルチェック項目の再考）</li> <li>転倒転落事故防止について</li> <li>グループワーク発表</li> </ul>
安全管理リンクナース会④	12/19	看護師	31名	2時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>注射薬ダブルチェックについて</li> <li>グループ討議 「転倒転落についての取り組みのまとめ」（情報共有）</li> <li>グループワーク発表・質疑応答</li> </ul>
安全管理リンクナース会⑤	2/20	看護師	30名	2時間15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>転倒転落対応の意識調査結果について</li> <li>活動報告</li> </ul>

研修区分	開催日	対象職員	参加人数	時間	内容
					<ul style="list-style-type: none"> <li>ミキシングダブルチェック実施状況結果</li> <li>リンクナースに期待すること</li> <li>リンクナース活動 講評および総括</li> </ul>

#### 平成 25 年度安全管理研修会・教育検討会

主催側	回数	参加数
安全管理主催	10 回	3,428 名
看護部安全管理リンクナース会	5 回	636 名
看護部主催	7 回	153 名
合 計	22 回	4,217 名

## I. 名古屋市立大学病院院内感染対策のための指針

### 1 院内感染対策に関する基本的考え方

患者とその家族、職員、委託職員、学生等院内すべての人々を院内感染から守るための効果的予防及び管理を実践する。

手指衛生をはじめとする標準予防策、あるいは必要に応じて感染経路別予防策を追加しての実践や、抗菌薬の適正使用を推進できるよう、医療従事者全員に指導・教育を徹底する。

また最新情報に基づき現行の感染対策を常に評価し改善していく。

### 2 名古屋市立大学病院における感染を積極的に防止し、院内の衛生管理に万全を期するため、感染対策委員会を置く。【感染対策委員会規約】

### 3 院内感染対策のための病院職員に対する研修に関する基本方針

#### (1) 院内感染対策講演会の開催

毎年2回、全職員を対象に院内感染対策の意識向上を図るため講演会を開催する。

(2) 毎年4月に、新規採用教職員に対して院内感染対策に関する研修会を実施する。

(3) 毎年2回、本院への中途採用者に対して院内感染対策に関する研修を行う。

### 4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針

中央臨床検査部にて院内感染を疑わせる病原微生物を検出した場合又は医療現場にて院内感染の発生が疑われる場合には、担当医師及び看護師長へ報告する。報告を受けた担当医師は、感染制御室に対応について指示を受け、必要があれば、感染症発生（診断）時の対応マニュアルに従い迅速に対応する。また、時間外に緊急度の高い院内感染の発生が疑われる場合には、感染制御室員に対応について指示を受ける。

感染制御室は、当該事例について、感染対策委員会委員長（病院長）、感染対策委チーム会委員長に報告する。

### 5 院内感染発生時の対応に関する基本方針

院内感染発生を把握した場合には対応について感染制御室に指示を受ける。感染制御室は、緊急度に応じて対策について感染対策委員会委員長（病院長）、感染対策委チーム会委員長に相談し、対策を指示・実施する。病院職員及び関連する所属は、指示に基づいて感染症発生（診断）時の対応マニュアルに従い迅速に対応する。



6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、患者等からの申請に応じて、閲覧に供する。閲覧を希望する者は、病院長へ申し出ることとし、閲覧場所は管理部事務課とする。(受付窓口：管理部事務課)

7 その他の院内感染対策の推進のための基本方針は必要に応じて病院長が別に定める。

8 他医療施設職員等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、他の医療機関における感染対策整備の参考等としての申請に応じて、閲覧に供する。閲覧を希望する者は、病院長へ申し出ることとし、閲覧方法は他医療施設職員等の状況に応じ、管理部事務課が対応する。

附 則

この指針は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この指針は、平成 19 年 11 月 6 日から施行する。

附 則

この指針は、平成 20 年 10 月 23 日から施行する。

附 則

この指針は、平成 23 年 5 月 17 日から施行する。

## 院内感染対策のための委員会等の開催状況

(平成 25 年度)

回数	開催日	主な議事
第 1 回	25 年 4 月 25 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 平成 25 年度新規感染対策委員</li> <li>② 平成 25 年度院内感染対策のための指針の確認について</li> <li>③ 平成 25 年 3 月分院内検査データについて</li> <li>④ 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>⑤ 平成 25 年 3 月分抗菌薬使用動向について</li> <li>⑥ 平成 24 年度針刺し・切創による血液・体液曝露の報告について</li> <li>⑦ 患者掲示板「感染症」項目の追加及び「感染症」結果表示について</li> <li>⑧ 平成 25 年度第 1 回感染対策講演会開催について</li> <li>⑨ 手術時手洗いのラビング法導入について</li> </ul>
第 2 回	25 年 5 月 23 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 4 月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ MRSA サーベイランス運用変更（案）について</li> <li>④ 感染対策講演会年間開催回数・内容について</li> <li>⑤ 平成 25 年度感染対策防止地域連携加算相互チェックについて</li> <li>⑥ 平成 24 年度第 3 回感染対策講演会（結核講習会）eラーニング受講状況について</li> </ul>
第 3 回	25 年 6 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 5 月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ 平成 25 年職員のワクチンスケジュールについて</li> <li>④ 手指衛生キャンペーンについて</li> <li>⑤ 感染対策委員会組織改編について</li> <li>⑥ 平成 25 年度第 1 回感染対策講演会参加状況報告</li> <li>⑦ 感染性廃棄物分別の徹底について</li> <li>⑧ NCU インфекションセミナー開催案内</li> </ul>
第 4 回	25 年 7 月 25 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 6 月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ 4～6 月分抗菌薬使用動向について</li> <li>④ 感染管理マニュアル改訂案について</li> <li>⑤ 感染対策委員会組織改編について</li> </ul>
第 5 回	25 年 8 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 7 月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ 感染管理マニュアル改訂（案）について</li> <li>④ 第 1 回感染対策講演会 eラーニング受講率報告</li> <li>⑤ 感染防止対策加算活動について</li> <li>⑥ NCU インфекションセミナー開催案内</li> <li>⑦ 抗酸菌検査について（依頼）</li> <li>⑧ 手指衛生キャンペーン作品展示・投票開始について</li> <li>⑨ ICT ニュース第 11 号発行</li> </ul>
第 6 回	25 年 9 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 感染対策委員・感染対策マネージャーメンバーについて</li> <li>② 8 月分院内検査データについて</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>④ 入院患者インフルエンザワクチン接種について</li> <li>⑤ 職員インフルエンザワクチン接種について</li> <li>⑥ 感染防止対策加算活動について</li> </ul>
第7回	25年10月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 9月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ 7～9月分抗菌薬使用動向について</li> <li>④ ICT定期ラウンド（上半期）報告</li> <li>⑤ 平成25年度の針刺し・切創による血液・体液曝露状況（上半期）報告</li> <li>⑥ エチレンオキシドガス滅菌のエアレーション時間短縮（案）について</li> <li>⑦ NCUインфекションセミナー開催案内</li> <li>⑧ 平成25年度第2回感染対策講演会日程について</li> <li>⑨ 針刺し時の時間外の感染症検査について</li> <li>⑩ 感染対策講演会受講促進に向けた取り組みについて</li> <li>⑪ 季節性インフルエンザの院内発生に関する対応について</li> </ul>
第8回	25年11月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 10月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について。</li> <li>③ 感染管理マニュアル改訂（案）について</li> <li>④ 季節性インフルエンザ流行期における院内感染事例に対する対応について</li> <li>⑤ 手指衛生キャンペーン実施報告について</li> <li>⑥ 感染防止対策加算活動について</li> <li>⑦ NCUインфекションセミナーについて</li> </ul>
第9回	25年12月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 11月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ 医療監視報告</li> <li>④ 第2回感染対策講演会開催について</li> <li>⑤ 周術期予防抗菌薬院内指針作成依頼について</li> <li>⑥ 医療監視報告</li> <li>⑦ NCUインфекションセミナーについて</li> <li>⑧ 新型インフルエンザ等特定接種に係る登録について</li> </ul>
第10回	26年1月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 12月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ 10～12月分抗菌薬使用動向について</li> <li>④ 感染防止対策加算活動について</li> <li>⑤ NCUインфекションセミナー報告</li> <li>⑥ 新型インフルエンザ等特別措置法に係るワクチン特定接種登録について</li> </ul>
第11回	26年2月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 平成26年1月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ 感染管理マニュアル改訂案について</li> <li>④ 第2回感染対策講演会出席状況報告</li> <li>⑤ NCUインфекションセミナー開催案内</li> <li>⑥ 新型インフルエンザ等特別措置法に係るワクチン特定接種登録について</li> </ul>
第12回	26年3月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 2月分院内検査データについて</li> <li>② 平成25年（1～12月）微生物検査まとめ</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"><li>③ 平成 25 年（1～12 月）薬剤耐性菌感染症報告</li><li>④ 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li><li>⑤ 感染管理マニュアル改訂案について</li><li>⑤ ICT 定期ラウンド報告</li><li>⑥ 感染対策講演会受講促進について</li><li>⑦ 26 年度感染対策委員会メンバーについて</li></ul>
--	--	--

1 医療機器の安全使用のための研修の実施状況(平成25年4月～平成26年3月)(特定機能病院)

① 新しい医療機器の導入時の研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
(例)	2009/6/1 2009/6/3	人工呼吸器の取り扱い方	講義、講義映像の視聴	看護師	100	
1	2013/4/3	手術支援ナビゲーションシステム Stealth StationS7	講義	医師	6	中央手術部
2	2013/4/4	極小切開硝子体手術システム3CCDイメージングシステム	講義	医師	5	中央手術部
3	2013/4/10	手術支援ナビゲーションシステム Stealth StationS7	講義	医師・看護師	15	中央手術部
4	2013/4/11	内視鏡TV装置 VISERA ELITE	講義	医師	6	泌尿器科
5	2013/5/9	Smart Infusiom System	講義	看護師	16	ICU・CCU
6	2013/5/14	Smart Infusiom System	講義	看護師	17	ICU・CCU
7	2013/5/14	人工呼吸器 AVEA	講義	看護師	22	ICU・CCU
8	2013/5/16	Smart Infusiom System	講義	看護師	17	ICU・CCU
9	2013/5/16	人工呼吸器 AVEA	講義	看護師	14	ICU・CCU
10	2013/5/21	人工呼吸器 AVEA	講義	看護師	2	ICU・CCU
11	2013/5/20	人工呼吸器 AVEA	講義	臨床工学技士	6	MEセンター
12	2013/5/22	冷温水装置	講義	臨床工学技士	3	オペ前室
13	2013/5/23	間欠の空気圧迫装置(DVT予防装置)	講義	臨床工学技士	6	MEセンター
14	2013/7/3	リュープリン皮下注射	講義	看護師	11	8北
15	2013/7/3	リュープリン皮下注射	講義	看護師	4	産婦人科外来
16	2013/7/22	リュープリン皮下注射	講義	看護師	5	8北
17	2013/8/1	超音波診断装置 HIVISION Preirus	講義	医師	2	乳腺内分泌外科
18	2013/8/5	微量血液凝固計(ヘモクロンシグニチャーエリート)	講義	医師、看護師、臨床工学技士	5	人工透析部

別紙資料7

① 新しい医療機器の導入時の研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
19	2013/10/8	血液ガス分析装置	講義	看護師	9	ICU・CCU 医局費
20	2013/9/17	人工呼吸器 ViVo50	講義	看護師	10	NICU・GCU
21	2013/9/20	人工呼吸器 ViVo50	講義	看護師	10	NICU・GCU
22	2013/10/28	Nasal High Flow	講義	医師・看護師	8	救命救急センター
23	2013/11/12	乳児用呼吸モニター ベビーセンス	講義	看護師	13	8北
24	2013/11/27～29	多項目自動血球分析装置XE-5000i 自動塗抹標本作製装置SP-1000i	講義・実技	臨床検査技師	1	中央検査部
25	2013/12/3	開放型保育器 インファウーマン	講義	看護師	11	ICU・CCU
26	2013/12/3	口外TPSドリル	講義	看護師	20	中央手術部
27	2013/12/3	CORE ストライカー	講義	看護師	20	中央手術部
28	2013/12/6	開放型保育器 インファウーマン	講義	看護師	15	ICU・CCU
29	2013/12/9	開放型保育器 インファウーマン	講義	看護師	12	ICU・CCU
30	2013/12/10	屈伸器OptiFlex	講義	看護師	6	12北
31	2013/12/10	ストライカー新腹腔鏡システム	講義	看護師	9	中央手術部
32	2013/12/12	屈伸器OptiFlex	講義	医師・看護師	10	12北
33	2013/12/12	屈伸器OptiFlex	講義	臨床工学技士	7	MEセンター
34	2013/12/17	ビセラエリート(気腹装置)	講義	看護師・臨床工学技士	23	中央手術部
35	2013/12/17	ストライカー エアシール	講義	看護師・臨床工学技士	23	中央手術部
36	2013/12/18	ビセラエリート(気腹装置)	講義	看護師	21	中央手術部
37	2014/1/21、22、 23	全自動化学発光酵素免疫装置HISCL-5000	講義	臨床検査技師	8	中央検査部
38	2013/12/26	全自動血液凝固装置 CS-5100	講義	臨床検査技師	8	中央検査部
39	2014/1/8	電動エシユロン	講義	看護師	16	中央手術部

## ① 新しい医療機器の導入時の研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
40	2014/1/27	病棟患者モニタリングシステム	講義・実技	看護師	74	看護部
41	2014/1/28	病棟患者モニタリングシステム	講義・実技	看護師	19	看護部
42	2014/1/29	病棟患者モニタリングシステム	講義・実技	看護師	74	看護部
43	2014/2/3	病棟患者モニタリングシステム	講義・実技	看護師	16	看護部
44	2014/2/4	病棟患者モニタリングシステム	講義・実技	看護師	24	看護部
45	2014/2/6	病棟患者モニタリングシステム	講義・実技	看護師	39	看護部
46	2014/2/24	病棟患者モニタリングシステム	講義・実技	看護師	51	看護部
47	2014/2/25	病棟患者モニタリングシステム	講義・実技	看護師	29	看護部
48	2014/2/27	リードポイント	講義	医師、看護師、臨床工学技士	4	中央手術部
49	2014/2/27	病棟患者モニタリングシステム	講義・実技	看護師	65	看護部
50	2014/2/27～28	全自動血液凝固装置 CS-5100	講義	臨床検査技師	1	中央検査部
51	2014/3/11	Philips Veradius	講義	看護師・臨床工学技士	22	中央手術部
52	2014/3/11	ベラディウス(イメージ本体)	講義	看護師・臨床工学技士	19	中央手術部
53	2014/3/17	新生児・小児用人工呼吸器 VN500	講義	医師	4	NICU・GCU
54	2014/3/19	リードポイント	講義	看護師	16	中央手術部
55	2014/3/19	ネーザルハイフローシステム	講義	医師	5	救命救急センター
56	2014/3/19	新生児・小児用人工呼吸器 VN500	講義	看護師	7	NICU・GCU
57	2014/3/24	人工呼吸器 VN500	講義	看護師	6	NICU・GCU
58	2014/3/27～28	全自動化学発光酵素免疫装置HISCL-5000	講義	臨床検査技師	1	中央検査部

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
1	2013/4/4	人工呼吸器 E-100M	講義	医師	1	15南
2	2013/4/10	人工呼吸器 e-500	講義	看護師	8	ICU・CCU
3	2013/4/23	高エネルギーX線発生装置(トモセラピー・リニアック) 密封小線源放射線治療装置	講義	診療放射線技師	31	第6会議室
4	2013/4/25	人工呼吸器 E-100	講義	医師・看護師	15	12南
5	2013/4/26	人工呼吸器 E-100	講義	医師・看護師	12	12南
6	2013/4/30	人工呼吸器 V60	講義	臨床工学技士	7	臨床工学室
7	2013/5/2	人工呼吸器 Trilogy100	講義	医師・看護師・ME	13	人工透析室
8	2013/5/2	人工呼吸器 Trilogy100	講義	看護師	4	9北
9	2013/5/7	人工呼吸器 Trilogy100	講義	看護師	6	NICU・GCU
10	2013/5/10	人工呼吸器 Trilogy100	講義	看護師	6	NICU・GCU
11	2013/5/14	人工心肺装置	講義	看護師	47	中央手術部
12	2013/5/17	人工呼吸器 BiPAP Vision	講義	看護師	19	14南
13	2013/5/21	人工心肺装置	講義	看護師	19	中央手術部
14	2013/5/23	人工心肺装置	講義	臨床工学技士	3	MEセンター
15	2013/5/28	除細動器XL	講義	看護師	14	ICU・CCU
16	2013/6/18	人工呼吸器 BiPAP Vision,V60	講義	看護師	16	ICU・CCU
17	2013/7/1	人工呼吸器 E-500	講義	看護師	17	9北
18	2013/7/18	閉鎖式保育器インキューi	講義	臨床工学技士	8	MEセンター
19	2013/7/19	人工呼吸器 BIPAP Vision	講義	看護師	27	15南
20	2013/7/22	人工呼吸器 E-500	講義	看護師	5	13北
21	2013/7/23	人工呼吸器 E-500	講義	看護師	10	13北



② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
22	2013/7/24	人工透析装置 DBB73+CHS350	講義	臨床工学技士	3	人工透析室
23	2013/7/25	人工呼吸器 E-500	講義	看護師	4	13北
24	2013/8/6	血液浄化装置(プラソートiQ21)	講義	看護師	2	人工透析室
25	2013/8/9	人工呼吸器 E-500	講義	看護師	13	15北
26	2013/8/12	人工呼吸器ハミングV	講義	看護師	3	NICU・GCU
27	2013/8/15	人工呼吸器SLE5000	講義	看護師	2	NICU・GCU
28	2013/8/20	血液浄化装置	講義	看護師	10	ICU・CCU
29	2013/8/22	人工呼吸器 E-100	講義	看護師	12	15南
30	2013/8/27	人工呼吸器840	講義	看護師	13	救命救急センター
31	2013/8/29	補助循環装置	講義・実技	臨床工学技士	8	MEセンター
32	2013/9/2	人工呼吸器 Trilogy O2	講義	看護師	11	15南
33	2013/9/3	人工呼吸器 Trilogy O2	講義	看護師	4	15南
34	2013/9/9	補助循環装置(IABP)	講義・実技	臨床工学技士	7	MEセンター
35	2013/9/17	補助循環装置(ECMO)	講義	看護師・医師	23	ICU・CCU
36	2013/9/17	補助循環装置(IABP)	講義	看護師	14	ICU・CCU
37	2013/9/26	除細動器	講義	臨床工学技士	7	MEセンター
38	2013/9/30	人工呼吸器 E-100	講義	看護師	11	11北
39	2013/10/1	人工呼吸器 ハミングV	講義	看護師	3	NICU・GCU
40	2013/10/3	人工呼吸器 SLE5000	講義	看護師	3	NICU・GCU
41	2013/10/15	補助循環装置(PCPS)	講義	看護師	7	ICU・CCU
42	2013/10/18	人工呼吸器 Trilogy	講義	看護師	14	16北

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
43	2013/10/21	人工呼吸器 E-500	講義	看護師	8	15南
44	2013/10/25	人工透析装置 DBB73	講義	看護師	12	人工透析部
45	2013/10/24	人工呼吸器 e360	講義	看護師	19	ICU・CCU
46	2013/10/29	人工呼吸器 e360	講義	看護師	10	ICU・CCU
47	2013/10/30	人工呼吸器 e360	講義	看護師	8	ICU・CCU
48	2013/10/31	血液浄化装置(ACH10)	講義・実技	臨床工学技士	7	人工透析部
49	2013/10/31	高エネルギーX線発生装置(トモセラピー・リニアック)密封小線源放射線治療装置	講義	診療放射線技師	26	中放部技師室
50	2013/11/11	人工呼吸器 840	講義	看護師	2	救命救急センター
51	2013/11/13	人工呼吸器 840	講義	看護師	18	救命救急センター
52	2013/11/14	人工呼吸器 840	講義	看護師	6	救命救急センター
53	2013/11/19	除細動器XL	講義	看護師	15	9北
54	2013/11/19	人工呼吸器 840	講義	看護師	7	ICU・CCU
55	2013/11/19	人工呼吸器 エビタ4	講義	看護師	7	ICU・CCU
56	2013/11/21	人工呼吸器 ハミングX	講義	看護師	5	NICU・GCU
57	2013/11/21	人工透析装置 DBB-73	講義	医師、看護師、臨床工学技士	24	人工透析部
58	2014/11/25	トリロジー	講義	看護師	6	11北
59	2013/11/28	除細動器XL	講義	看護師	5	9北
60	2013/11/28	人工呼吸器 ハミングX	講義・実技	看護師	4	NICU・GCU
61	2013/11/29	閉鎖式保育器 V-2100G	講義	看護師	9	8北
62	2013/12/10	閉鎖式保育器 V-2100G	講義	看護師	3	NICU・GCU
63	2013/12/3	人工呼吸器 ケアベントMRI	講義	医師、看護師	24	救命救急センター

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
64	2013/12/17	補助循環装置 (PCPS)	講義	看護師	8	救命救急センター
65	2013/12/24	補助循環装置 (IABP CS300)	講義	看護師	8	救命救急センター
66	2013/12/24	血液浄化装置 MA-03	講義・実技	看護師、臨床工学技士	5	人工透析部
67	2014/1/6	人工呼吸器 R100	講義・実技	臨床工学技士	6	MEセンター
68	2014/1/22	補助循環装置 (遠心ポンプ)	講義・実技	医師、臨床工学技士	8	循環器内科
69	2014/2/18	補助循環装置(ECMO)	講義・実技	看護師	23	ICU・CCU
70	2014/2/20	人工呼吸器 E100	講義	看護師	8	16北
71	2014/2/21	人工呼吸器 E100	講義	看護師	11	看護部
72	2014/2/27	人工呼吸器 SLE5000	講義	看護師	2	NICU・GCU
73	2014/3/17	人工呼吸器 E500	講義	看護師	7	看護部

(注) 1 「特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器」とは、①人工心肺装置及び補助循環装置、②人工呼吸器、③血液浄化装置、④除細動装置(AEDを除く)、⑤閉鎖式保育器、⑥診療用高エネルギー放射線発生装置、⑦診療用放射線照射装置です。

③ ①、②以外に実施している研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
1	2013/4/1	低圧持続吸引器 SD-3000	講義	看護師	2	11南
2	2013/4/4	低圧持続吸引器 SD-3000	講義	看護師	2	11南
3	2013/4/11	ペースメーカー	講義	臨床工学技士	3	ME
4	2013/4/22	自動搾乳器メデラシンフォニー	講義	看護師	6	NICU
5	2013/5/13	シリンジ・輸液ポンプ・モニター	講義・実技	看護師	57	4階第一会議室

③ ①、②以外に実施している研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
6	2013/5/16	内視鏡	講義	医師	6	内視鏡部
7	2013/5/21	シリンジ・輸液ポンプ・モニター	講義・実技	看護師	57	5階第一会議室
8	2013/5/24	オムロンネブライザ NU-17	講義	看護師	2	16階北
9	2013/6/20	ICD	講義	臨床工学技士	2	人工透析室
10	2013/6/20	メデラ搾乳器	講義	看護師	13	NICU・GCU
11	2013/6/24	ペースメーカ	講義	臨床工学技士	3	MEセンター
12	2013/6/24	CPAP	講義	看護師	13	10南
13	2013/6/28	ピジョン哺乳用乳首、搾乳器	講義	看護師	12	8北
14	2013/6/28	輸液ポンプ、シリンジポンプ	講義	看護師	22	看護部
15	2013/7/1	ICD	講義	臨床工学技士	3	MEセンター
16	2013/7/3	VUSプログラミングワイド	講義	医師	1	こころの医療センター
17	2013/7/10	ICD	講義	臨床工学技士	3	MEセンター
18	2013/7/16	体外式ペースメーカ	講義	看護師	9	ICU・CCU
19	2013/7/16	超音波ネブライザー NEU17	講義	看護師	6	NICU
20	2013/7/22	メデラ搾乳器	講義	看護師	15	8北
21	2013/7/22	CPAP	講義	看護師	11	10南
22	2013/8/23	超音波メス ソノサージ	講義	臨床工学技士	2	MEセンター
23	2013/9/2	小型シリンジポンプ TE-361	講義	看護師	9	12南
24	2013/9/3	小型シリンジポンプ TE-361	講義	看護師	5	12南
25	2013/9/17	モニタ フロートラック	講義	看護師	14	ICU・CCU
26	2013/10/16、 10/31	縫合針	講義	看護師	24	中央手術部

③ ①、②以外に実施している研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
27	2013/10/18	経皮血液ガスモニター	講義	看護師	12	NICU・GCU
28	2013/10/22	低圧持続吸引器 SD-3000	講義	臨床工学技士	4	MEセンター
29	2013/10/22	経皮血液ガスモニター	講義	看護師	10	NICU・GCU
30	2013/11/10	在宅エポプロステノール	講義	看護師	9	14南
31	2013/11/11	ハイフローセラピーシステム	講義	看護師	17	15南
32	2013/11/14	在宅エポプロステノール	講義	看護師	11	14南
33	2013/12/16	加温加湿器 tkbMG7000	講義	臨床工学技士	4	MEセンター
34	2013/12/16	加温加湿器 tkbMG7000	講義	医師・看護師	14	NICU・GCU
35	2013/12/3	ベッドサイドモニタ PVM-2701	講義	看護師	14	17北
36	2013/12/4	ベッドサイドモニタ PVM-2701	講義	看護師	4	17北
37	2013/12/24	加温加湿器 tkbMG7000	講義	医師・看護師	9	NICU・GCU
38	2013/12/26	JMS輸液ポンプ OT-818G	講義・実技	臨床工学技士	4	MEセンター
39	2013/1/15	アイノベント	講義	医師・看護師	12	NICU・GCU
40	2013/1/28	アイノベント	講義	看護師	8	NICU・GCU
41	2014/2/5	危機管理研修会(AED)	講義	全教職員	497	大ホール
42	2014/3/10	内視鏡システム	講義	医師・看護師	10	救命救急センター
43	2014/3/13、3/25	ビセラエリート(腹腔鏡本体)	講義	看護師・臨床工学技士	21	中央手術部
44	2014/3/17	HOT	講義	看護師	9	10南